

感謝と期待

岡山文章

日本台湾医師連合が発足して早くも3年になりました。台湾のWHO(世界衛生機構)への早期加盟の促進は当初の目標の一つでしたが、去年はSARS蔓延がきっかけとなり、日本が台湾のWHAオブザーバになることに賛成票を投じ、さらに今年も、アメリカが早々と世界中の国々が支持するように呼びかけました。このように台湾及び国際情勢が刻々と変化していく中、本連合もその都度日本のジャーナリスト、政治家、軍事評論家や学者など各界の専門家をお招きし、台湾情勢及び日台関係を分析していただき、あるいは将来の展望を語っていただきました。

この二年間、本連合は台湾の医師会団体と交流し、意見交換もしてきました。また、他の在日台湾人団体や日本の友好団体と協力し、いろいろな活動を共催してきました。今まで多数の高名な講師方々の講演会を開き、ホームページを開設し、会報を発行し、日本の方々に対して我々の台湾を僅かながらでも紹介できたのは、役員、会員の諸先生方、そして金美齡先生をはじめ、台湾の建国のため尽力する諸先輩方及び日本の有志友人の方々の惜しみないご協力の賜物だったと思い、心から感謝を申し上げます。

台湾へ行きますと、友人からいつも「心配なくてよろしい。誰も(藍営も緑営も)向こう(中国)と一緒になろうと思っていない」と言われます。しかし、去年の総統選挙で陳水扁さんは辛勝したものの、国会議員選挙では野党が勝ったため、政策、法案及び予算が国会で通らないし、事実上なにも仕事が出来ない状態なのです。国際世論は「台湾の人々は政治センスのバランスが良い」と戸惑いながらも評していますが、実際には単にこの共同体の国民達が、国家あるいは周りの同胞に対して、一個人の責務が欠如している一すなわち近代民主主義国家の国民としての素養が未熟である、あるいは無知なだけであるということなのです。それは戦後の中国式教育の影響があるでしょう。中国人の国家観とは、せいぜい中華文明を戴いていれば、世界に冠たる国家になれるという程度のものであり、国民一人一人が国の主人公との自覚を持たなければならないという近代国民国家の観念からは程遠いものがあります。

我々は台湾から離れてはいるものの、近代国家の日本に暮し、身も心も真の自由、民主に浸っています。そこでぜひ、日本に居るからこそ持てる「国民とは何か」という我々の視点を台湾へフィードバックし、またそれによる台湾での成果を一日も早く日本の人々にお示ししたいと思うのです。

この数年間、日本における台湾を愛する台湾人及び日本人団体が多数成立し、活発に活動しております。日本台湾医師連合でも150名の会員一人一人が一支部のつもりで、台湾情と大和魂をもって地域医療に貢献し、さらに他の団体と協調しながら本連合の目標—台湾の国際地位の向上及び日台関係の親密化の達成に邁進したいものです。

本連合の使命は重たいものがありますが、それだけに意義深いものがあります。これからも心を合わせていかなければなりませんので、諸先生方のご協力をよろしくお願い申し上げます。

会長就任にあたって

丘 哲治

日本サッカーチームが2006年ドイツ本大会に出場することが近いのを祝うかのように桜花爛

漫の今日、心浮きたつ爽やかな季節となりました。会員の皆様には相変わらずご活躍のこととお慶び申し上げます。

2001年の終わりに、高い医療水準を誇る台湾がまだWHOに加入していないことを知り、多くの仲間は驚きました(当時既にご存知だった先生方もおられました)。地域医療に携わる我々は誰よりも健康と公衆衛生の大切さを知っており、こんな筈がないと思いました。しかし、台湾がWHOに加入できないことは紛れもない現実でした。4年経った現在も、このような状況は続いております。台湾が世界の医療網や公衆衛生のネットワークから除外されることは、台湾にとっても世界にとっても大変に危険で、且つ非人道的なことです。このことは我々にとって大変遺憾で、見過ごすことはできません。

台湾がごく普通の国のように一日も早くWHOに加盟ができることを多くの先生が望んだ結果、台湾出身者の医療人が結集し日本台湾医師連合を立ち上げてから、早や3年が経ちました。成立以来、会員の先生たちが医師や歯科医師でありながら、限られた時間、限られた資金と人的な資源で重光茂栄、岡山文章両前会長のもと、何らかの形で、何かをしたい気持ちで、今日まで活動をしてきました。大きな成果をあげたとは言えませんが、我々なりの努力が少しずつ実を結びつつあることは胸を張って言えます。会員の皆様の協力があつたからこそ、このような成果があらわれたことを、この場を借りて会員先生たちに厚くお礼を申し上げます。

しかし、現在、台湾は国際社会におけるWHO未加入問題のみならず、外交的に多くの問題を抱え、非常に厳しい環境に置かれています。日本台湾医師連合は微力であるとは知りながらも、故郷がより良い立場、より安全な環境の中で国際社会に参加できる日が一刻も早く訪れることを望んでいます。幸い、我々が住むこの日本の地では、たくさんの素晴らしい日本の友人が台湾を愛し、台湾を応援してくれています。日本政府も重い腰を上げ、2年前から台湾のWHO加入を支持すると明確に表明しました。更に、中国が制定しようとした“反国家分裂法”を見据え、今年2月に日本とアメリカ両国政府が2プラス2会議で台湾海峡の安定化は日米両国の“共通の戦略目標”という政策を打ち出しました。台湾の安全保障における問題がこのように外交の場で討議され、しかも声明が発表される事は極めて異例なことでしょう。

日本台湾医師連合の会員たちはこの日本の地を第二の故郷とし、それぞれの地元に根を張って、地域医療に貢献して来ました。我々会員が台湾を思う気持ちや台湾を愛する心情は言うまでもありません。しかし、決してこれにとどまることなく、我々が先頭に立って、周囲の日本の友人達にも台湾が置かれる現状を認識してもらい、台湾を応援してくれるように努力しなければならないと思います。過去3年間、台医連がお招きした講師たちは台湾のことを良く知り、しかも日台関係の重要性を非常に重視する先生たちです。こうした講師の先生方の講演を通して、日本の友人達もっと台湾の事を認識できることと思います。日本に住む台湾系日本人の我々が台湾の為、こうした講演会を開催することは非常に意義あることと考えられます。一連の講演会は回を重ねていくうち、最近では参加者の半数以上が日本の友人達です。このことが執行部を勇気づけ、台医連の定款が定める通りの「台湾と日本の親善交流の促進する」という方向で「台湾の国際地位を高めること」につながっていくのではないかと思います。

より多くの日本の友人が台湾の国際社会における存在価値と地位に賛同し、台湾を応援してくれることは現段階で本会の最大の課題と執行部は考えています。是非ともこの理念を、他の台湾を愛する団体と一緒に広く知ってもらいたいと存じます。この目標に向かって理事の皆が知恵を搾り、努力をしている最中であります。

2004 所感

大山青峰

記得甘乃迪總統說過「不要問國家能為 做些什麼、要問 能為國家做些什麼」如果在這個台灣民主政治發展的關鍵時刻換個方式思考這句話「不要問台灣能為 做些什麼、要問 能為台灣做些什麼」尤其身在海外的我們、我們能做些什麼？我們該做些什麼？

回顧 2004 年、真可謂一路走来、徒興感嘆！由台灣的選舉結果來看、所謂 Taiwan Nationalism 占有率大概只有人口的一半。因此李登輝先生認為這種台灣主體意識必須提高到 75% 以上時、那些法律憲政上的問題才可能順利的解決！

特別是“兩岸”問題、不管陳總統或連戰在選舉中都提到兩岸和平談判、但現實狀況根本不是如此。因為台灣是小國、中國是 13 億人口的大國、除非小國完全接受大國的要求、不然要平起平坐根本不可能。台灣主體意識必須再升高、讓中國不得不重視、不得不和台灣談、那時候的談判才有結果、否則現在說要和談都是空話。

當然對抗龐大的黨國怪物時、所有的結論是：具有理想性和道德性、且貼近主流民意期待的黨才有可能選勝！台灣主體意識就像空氣的存在一樣、雖然看不到、但沒有的話人還是會窒息而死的！是一種 *si'ne qua non*。

而且所謂文化、所謂民主、並不是幾個知識分子關在房間裡就可以想像出來的！如何讓理念與民衆產生連結和溝通才是關鍵 ！

任何事情都有其由來、每一結果必有其原因。不從歷史學習教訓、歷史一定重演。只有經由對台灣歷史的了解、對台灣文化的認識、對台灣社會的關心才可能提高台灣主體意識的認同！

猶如寒風中的盞盞燈火、但願有更多人熱情的挺身而出、点亮黯暗夜空中的滿天星斗！

日本植民下台灣的教育政策——伊沢修二的教育構想

東 昌明

前言：

教育是百年事業、一國最重要基盤、台灣今日得以屹立於世界文明之列、識字率近 90%、經濟成長傲視群鱗、乃拜賜於近代文明教育之功、此點日人文明同化教育政策功不可殁；政治混頓不明、國家認同不清、行為舉止乖離、乃是植民教育思想施策非以台灣為主體之罪、此點日人与蔣政權的植民教育政策難辭其咎。為了提示往後台灣應行進正確的教育體制思案、必須理解過

去植民政權下錯誤的教育思想根源處,此乃本篇文章要諦所在,內容稍嫌硬直枯燥,謝々耐心閱讀。

本文:

(1) 台灣統治的教育構想:

明治 28 年(1895 年)5 月 8 日下關條約締結後,台灣正式納入日本版土,日本海軍大將樺山資紀被任命為初代台灣總督,“國家主義教育”的推進者伊沢修二由自薦而被內定任命為初代台灣總督府民政局下學務部長。

民政局長官乃協助總督掌管行政司法事務,學務部長則專執教育事務。第二次世界大戰終結前,台灣的初等教育就學率能超過 70%,伊沢修二先生功不可沒。因此要探討台灣的教育政策,必須由伊沢修二的教育構想切入。

根據內閣下台灣事務局在明治 28 年 6 月的調查報告書,當時台灣的教育體制,大抵由鄉學、縣學、府學、督府學四個系統構成,教學內容、講讀四書修身課程,此外列入漢語、地理、歷史、算數、作文及日本語等。有關國語體制教育的實施以及同化教育體制並不明確,但是在伊沢修二先生渡台後,就完全不一樣了,積極展開國語教育同化統治。

伊沢修二係出生於信濃國的高遠,先祖乃高遠藩的貧士,修二以藩的貢進生畢業於大學南校,經愛知師範學校長後於明治 8 年奉派赴美調查歐美師範學科教學制度。明治 11 年歸國後,在音樂、體育、盲啞教育分野、教育圖書的編纂、制度的訂定,貢獻其才能,乃日本近代文明教育的先驅功臣。

明治 23 年(1890 年),提倡國家主義教育的初代文部大臣森有禮過逝後,伊沢修二以後繼者自認,翌年創立國家教育社,推進國家主義教育,(時任文部省參事官)為了獎勵就學,提言小學教育應由國庫補助,亦即義務教育的理念,他認為教育乃是國勢維持最重要的手段,國庫充當是必然的結論,此舉讓財政窘迫的明治政府非常困惑,導致非職。

撤官後的伊沢修二,轉進政界,在日清戰勝直前,為東京市會議員,得知台灣將併入日本版土,為了在領土(台灣)實現自己國家主義教育理念,託文部省次官牧野代為引見已內定為首代台灣總督的樺山資紀,上呈即將上梓的“日清字音鑑”(自作,以韋德式羅馬字與日片假名來表記中國語字音。)暢談國家主義教育理念在統治上的必要性轉而得以晉見元帥山縣有朋,內定為初代台灣學務部部長。

明治 28 年(1895 年)6 月 17 日午後,伊沢修二抵台履新,在繁華街大稻 (西門町)借民家立事務所,當時台北城內,治安不良,知識人、資產家出走避難於對岸大陸或日本本土,6 月 22 日雇清國人巴連德、本島人林瑞庭為事務所職員,設學堂(國語傳習所)募集生徒,最初並不理想,接受大稻 土紳李春生(台灣同化教育推進協助者)的建言,將學堂據點移至台北郊外士林「劍潭寺」,學務部也一併移入芝山巖廟堂內(原因:士林乃知識人據點),7 月 5 日以月給拾圓聘雇柯秋潔、朱俊英為日本語講習的候補生,隔日,7 月 6 日,在台灣本島士林芝山巖啓開植民統治下台灣國語教育、亦即台灣同化教育的開始。啟動了伊沢先生國家主義教育政治理念的牽引機。此時上呈給總督的學事計畫案僅分成二個大綱:“目下急要的教育關係事項”以及“永遠的教育事業”,有關同化的內容項目在文面上尚未出現。

異族統治下,精神、情緒不安定,社會治安不良,對於未來的落失感,在明治 29 年(1896 年)1 月 1 日引爆了芝山巖事件,以簡大獅為中心的抗日志士為了奪還台北城,蜂湧起事,襲擊芝山巖學堂,學務部精銳除了伊沢修二、山田耕造因事返內地外,其餘 6 名學務員(揖取道明、關口長太郎、中島長吉、井原順之助、桂金太郎、平井數馬)皆被屠殺,為教化台灣子民而犧牲的日方教育

学者,在芝山巖廟堂立有碑石,由當時伊藤博文內閣總理大臣提書碑名“学務官僚遭難之碑”,以為後繼者的教育精神象徵,名之“芝山巖精神”。文遊至此,順便介紹去年歲末發生的台日間軼聞,日本元總理森喜朗先生接受前駐日羅代表的邀請訪台,與前總統李登輝先生叙餐後,一同造訪芝山巖学堂及記念碑,由李先生解說上述歷史經緯,日後言談流布于国会議事町,為台日扣下一枚紐帶。芝山巖事件後,社会治安漸次回復,同年3月31日,總督府正式整備学校編制,伊沢先生的教育政策構図漸次明朗,国語教育的 ideology(意識形態)也漸次鮮明,5月制定頒布“国語伝習所規則”(台灣本島独自的教育法令)。茲轉記其中第一条及第十三条,大抵可以明白其主旨目的。

第一条:国語伝習所ハ本島人ニ国語ヲ教育シテ其日常ノ生活ニ資シ、且本国的精神ヲ養成スルヲ以テ本旨トス。

第十三条:本所ハ国語ノ伝習ヲ以テ本旨トスト雖、常ニ道德ノ教訓ト智能ノ啓発トニ留意スルヲ要ス。道德ノ教訓ハ皇室ヲ尊ヒ本国ヲ愛シ人倫ヲ重ンセシメ以テ本国的精神ヲ養成スルヲ旨トシ、智能ノ啓発ハ世ニ立千業ヲ営ムニ必須ナル知識技能ヲ得シムルヲ旨トス。

由上述二条的内容,很明顯可以看出來以国語教育為手段,推行德育、智育,教化啓發台灣本島子民,一方面習得文明的知識技能歸趨于文明的同化,他一方面宣揚尊皇忠君愛國国体論,習得日本人的精神歸趨于民族的同化。9月25日以府令35号公布總督府国語学校以及付屬学校規則,正式推行上述二大同化教育政策(文明への同化、民族への同化。)於台灣各地。伊沢先生的本意,乃是脱植民地的教育構想。

(2) 同化教育的論理及出發:

台灣植民地化後,国語教育的發足,同化意識形態的教育方針,乃以伊沢先生的理念為主軸,實際上有關台灣言語情事,與伊沢先生的認識有很大出入,台灣住民所使用的言語是以福話為主,因此隨行渡台百餘名通譯人完全用不上場,自作的“日清字音鑑”如同廢物,但是諸多挫折,並不影響其同化教育的理念。

明治29年,伊沢さん一時歸國,2月11日在神田錦輝館國家教育社第6回定例会發表演說,強調日本對於台灣的植民統治與西歐諸國不同,不僅植民于政治、經濟上,更期待著以国語教育施策征服台灣人的精神,使台灣日本化,成為日本體幹的一部分,截錄部分演詞,可窺其真意。“抑新領土は我君の領土である、此人民を日本化せしむるは、教育より他にない故に我々は此身体を棄てて行くは当り前の話である。如何と存れば、我々の身体を成して居る所の皮膚なり、肉なり、一片の骨なり、一滴の血なり、何処より来るものぞと云へば、我が皇祖、皇室以来数千年間、父祖の時より帝室の御恩沢で出来た血であり肉であり。これを我が君に捧げる事は、誠に難有い話で少しも惜むところでなく、実に名誉の至りであると我どもは考へて居る。”

西歐諸國是以宗教信仰(耶蘇教國)來作為植民地支配統治的動能及精神上的支柱,而伊沢さん所依賴的是“国体論”,亦即以效忠天皇國家的国体精神,來教化台灣島民並支柱政策推行者的中心信念,因此導入台灣德育(道德規範修身教育)的教育勅語乃以反映国体精神為基準,因此我們可以肯定的作出下述結論:

『伊沢さんの台灣教育基盤制作,並非以教育者的立場來思考,而是依据其国体論的政治理念來規畫台灣基盤教育制度。為了實現其台灣日本化統治教育理念,一視同仁教育政策,便成為重要的施策手段』

只要服從天皇制,就是日本臣民,如何達成精神上的服從,教育是唯一手段,因此如何溶入日本民族中同化教育手段,即是伊沢さん台灣統治教育政策的中樞所在。

明治 28 年 10 月伊沢さん隨樺山總督巡台視察途經台南，曾拜訪長年居台英人宣教師 T. Barclay，深知非以台灣母語宣教失敗經驗，還是強勢導引國語教育施策，其目的就明顯了，不僅是要教育台灣子民藉通達日文以吸取世界文明知識(文明への同化)，更重要的是欲同化台灣人溶入日本民族中成為順良忠實日本國民(民族への同化)。此教育理念深受上田万年先生以及小川尚義先生的影響。

(上田万年：東京帝國大學、文科大学學長；小川尚義：上田万年直傳弟子，伊沢さんの第一任學務課長。)

伊沢さん離台後，教育機關名稱由國語傳習所改制為小學校及公學校，但是以智德為中心的教育基盤還是持續，此由二代目學務課長兒玉喜八(學務部改制為學務課後首任主掌者)在明治 31 年(1898 年)作成的“學務部創設以降事業ノ概略”文中述詞可資佐証：

“國家ノ富強ヲ図リ國民ノ智德ヲ啓発シ、コレヲ文明ニ誘致スルハ教育ノ力ニ籍ラサルハ可ラサルハ言フ須ヒス。謂フニ本島民ノ如キ漢族ノ系統ニ屬シ、四千年來一定不動ノ軌道ヲ踏襲シ、其風俗理想ニ於テ牢守トシテ抜ク可カラザル民種化シテ順良忠實ナル日本國民ト為サンニハ全島各地ニ公學校設置シ、次代ノ島民タルヘキ幼年ヲ薰陶シ、日本ノ言語ヲ注入スルト同時ニ日本的普通教育ヲ施スニ若カサルナリ。”

(明治 31 年 7 月廢國語傳習所，改設小學校(限居台日本人子弟)、公學校別名初等學校(台灣子弟))。

(3) 一視同仁教育政策：“民族への同化”的教育手段

伊沢さん期待以智育、德育教育手段達成上述二大同化目標，但是實際上在教育現場並沒有反映出均質的發展，究其原因，乃智育水準若過於低下，德育教化無法深入骨髓，民族への同化難以達成。因此實質上最初予人偏重智育的錯覺。

台灣最初的國語教育教材，“台灣適用國語讀本初步”乃由伊沢さん主導，栗野伝之丞、伊能嘉矩兩位先生主編，明治 29 年台灣總督府民政局學務部發行，其內容分上下兩冊，僅發行上冊，理由不明，又分上下兩段，上段是片假名與漢字混合，下段是本文的台灣語訳(由柯秋潔、陳兆鸞主筆，芝山巖學堂卒業生)，據歷史研究者蔡錦堂的調查，全書共 17 課，其中第 3、4、5 是日本的地理，介紹日本本國(本國へのたび)，其他包含自然、理科、天文現象、博物等近代文明知識，內容一看，就可以明瞭偏重智育，德育內容僅介紹明治天皇及楠木正成兩人而已。欲同化台灣人民溶入日本民族，化為日本臣民，德育內容教材反而偏低，欲透析原委，須要提出明治 22 年 8 月 10 日伊沢さんが在信州上伊那郡夏季講習會中的講義內容如下：

忠君愛國道德精神的涵養是國家教育的重點，“唯智育ト德育トノ關係ハ、ドウカト言ツタナラバ、智育ガ德育ノ土台トナル可キモノデアルト思フ、ソコデ道德ノ高俤イト云フ事ハ詰ル所、智識ノ多イ少ナイニ關係スル様ニナツテ参リマス。”教育施行的順序，應由智育而德育，亦即先充實智育以為德育的基礎進而養成尊皇忠順良民。因此台灣最初的國語教育教材，初見似乎忽略了德育內容，實際上文明的同化手段(高揚智育)乃是進入民族同化的最捷徑、最有效的方法。

為了實現民族への同化，與內地差別統治的障害必須首先克服，因此一視同仁教育政策的實施便成必然的結果。漢訳文教育勅語的導入(明治 30 年 1 月 18 日)便成為最高的國家教育指針，在此之前，開校式或卒業式也訓令奉讀教育勅語(忠君愛國、修身養性、人倫道德有関精神教育訓令文)，但僅止於奉讀。明治 30 年 5 月 8 日國籍選択最終日，伊沢さんが在“台灣公學校設置有関意見”的演說中，表示台灣的人民都是日本國民，因此導入教育勅語，徹底實施貫徹精神教育將是台灣統治第一優先工作，不論國籍選択與否，一律一視同仁，當時民政長官水野遵也以“無論日台之人一視同仁保愛如子”等論詞宣示。

(1) 平等主義教育：

明治 29 年 10 月国語伝習所設立。

入学資格：自認是日本臣民、誠心服從日本法律、不吸食阿片、不賭博。

年齡制限：甲科(日本語專門)15 才～25 才

乙科(日本語及算數等)8才～15 才

書房、義塾逐步公学校化，為了提高就學率，国語伝習所採無償入学方針(內地僅補助)，書房、義塾則以補助獎勵方式，平等主義教育政策反映在初等教育体制上。明治 31 年(1898 年)4 月預定開設的官立中學，原則是收援移住者日本人子弟為中心，乍看似乎有違一視同仁政策，但是如果以 1895 年植民開始計算，適齡學童，幾乎沒有，而且日本語堪能的本島子弟也准予應募，因此實際上也不能說是完全逸脫一視同仁，此外同時期預定開設的県立中學校，則以日台子弟共學的構想展開一視同仁、平等主義教育政策。

教育勅語的導入，克服與內地差別統治的難題，施行平等主義教育，乃是一視同仁政策的具体化，以同化台灣人，使日本人化的同化教育構想在結論上公学校普及化，全國全面實施是必然的手段與措施，但是初等教育機關採分離主義(公学校台灣人子弟，小學校日本人子弟)，儘管有許多客觀環境因素存在，很顯然的是違背一視同仁原則。

明治 30 年(1897 年)7 月，伊沢さん非職離台，對台灣仍然抱持高度關心態度。例如已成為貴族院議員的伊沢さん在第 13 回帝國議會中，對台灣總督府提出的“六三法延長案”因違反平等化，違背同化(同一化)原則，與當時民政長官激烈爭論，持反對立場。

(六三法是什麼法，伊沢さん為什麼強烈反對，實際了解內涵後，即可明白，六三法基本上乃是台灣統治的法源，明治 29 年 3 月在第九回帝國議會中“台灣ニ施行スヘキ法令ニ関スル法律案”審議通過，以法律六三号 3 月 30 日公布實施，故稱六三法。全文如下：

第一條：台灣總督府ハ其ノ管轄区域内ニ法律ノ効力ヲ有スル命令ヲ発スルコトヲ得。

第二條：前條ノ命令ハ台灣總督府評議會ノ議決ヲ取り拓殖務大臣ヲ經テ勅裁ヲ請フヘシ台湾總督府評議會ノ組織ハ勅命ヲ以テ之ヲ定ム。

第三條：臨時緊急ヲ要スル場合ニ於テ台灣總督府ハ前條第二條ノ手續キヲ經スシテ直ニ第一條ノ命令ヲ発スルコトヲ得。

第四條：前條ニ依リ発シタル命令ハ発布後直ニ直裁ヲ請ヒ之ヲ台灣總督府評議會ニ報告スヘシ。

第五條：現行ノ法律又ハ将来発布スル法律ニシテ其ノ全部又ハ一部ヲ台灣ニ施行スルヲ要スルモノハ勅命ヲ以テ之ヲ定ム。

由上述全文可以理解，六三法即是給予台灣總督府立法權，由總督制定的法律特稱“律令”，有別與日本國內法僅限用於台灣，很明顯的，台灣乃日本憲法的異域，法域外當然與伊沢さん的一視同仁台灣統治觀有很大的差距。

而六三法延長案：台灣總督府評議會的構成員中有二名台灣人員額，原本並無資格制限，在修正的延長案中則提出必須納付地稅或營業稅 10 円，以上的學識名望者，當然更是遠離一視同仁原則。)

(2) 混合主義教育施策：

依伊沢さんの構想，以智、德為教育基盤的國家教育政策，国語教育方式是唯一選擇、唯一的工具，但是在領台初期，實際上對台灣傳統的教育機關、書房義塾以及漢文漢字等問題無法解決，只有採取混合主義亦即溫存漢文漢字、容認書房義塾暫時存在的混合主義教育施策，由下述一段說詞即可推知。

“我々と彼れと混合融合して不知不識の間に同一国に化して往く。”(明治30年在神戸開催の帝国教育大会上以“新版図人民教化的方針”的演說詞中出現)亦即支配與被支配者之間,言語與文化共同妥協的混合主義。

事實上,渡台前,伊沢さんの腦子裡根本沒有漢文、漢字的存在,曾公言:假名文字乃是吸取西歐文明最便捷的文字,欲以片假名取代繁雜的漢文字;但是入台後,一改立場,轉成保存漢文字,其理由主要有二點:其一是統治上意識疏通的必要性,其二乃是对台灣住民的一種懷柔政策。如前所述,伊沢さん入台前由於研判錯誤,通譯者中無人熟悉福語,根本無法與台灣人溝通,當然更談不上政策的推行與統治,國語傳習所、公學校創設當初的說明會,乃借助漢文字與台灣社會知識人士相溝通,在這種情況下想廢止漢文字是不太可能,此外為了推行同化政策,國語(日本語)教育全面導入,不教授漢文,在日常生活上對台灣住民將造成莫大困擾,使入學齡兒童父母心生不安,不願接受新式教育,無法與書房、義塾相競爭,因此在明治31年10月31日改正國語傳習所規則,視各地實際狀況准予乙科教授漢文(聘請書房先生任教)以收民心,促使國家教育政策得以順調進行。因此我們可以結論說:伊沢さん溫存漢文、漢字乃是為普及國語教育,早日推進同化教育政策一時的舉措。

由於漢文、漢字有其溫存的必要性,不得不容認書房與義塾的存在,而實際上此台灣傳統教育機構在基本上與國語教育施設是對抗的關係,因此接下來須要論述伊沢さん如何將書房、義塾公學校化。

學務部員木下邦昌在“視察復命書”中(明治29年上呈)對台灣領有當初,書房的概況有一通盤敘述,教師以自宅或寺廟為教舍,書房名個自命之,謝金不一,依生徒貧富而定,修業年限,以謝金多寡而定,無畫一校規,授業內容以背誦三字經、四書、五經、史記為主,輕視算數,視為商人技業予以排除,教師資格無規定,大抵科舉出身,因此書房全體像是“崇清”,不適合本國國民台灣子民學習作結論。此外義塾基本上乃屬官立,係為貧困生徒而設立的施設,台灣領有之初即被廢止,民間志士運營的私立義塾經日清戰爭的摧殘,大半流失,雖然不適合統治者的統治理念,但是基於政治上安定的考量,最終採行混合主義逐步公學校化。時任台南縣知事磯貝靜藏上呈學務部的具申書上也可以查出類似上述主張的事實文書,“現在是施政始初,教化台灣子民最主要事項,乃是帝國政體概略,忠君愛國的內涵確實注入台灣住民腦內,在公學校尚未普及現階段,書房義塾依忠君愛國中心理念教育勅語加以改正並以漢文編纂全島頒布。”明治31年1月15日規定書房義塾授業科目必須加設國語,而且必須超過2小時1日授業時數,同年11月10日頒布書房義塾設置規則,其中“第一條:此規程ハ書房義塾ヲ改良シ、漸次公學校ノ教科ニ準セシメ併セテ風儀ヲ矯正スルヲ以テ目的トス”,對於從來的教科書“台灣總督ニ於テ教育上須用ト認ムル書籍ヲ以テ生徒必修ノ教科書ニ定ムルコトアルヘシ。”加設國語、算數,成績優良書房給予補助逐步公學校化。

實際上經改良後書房所使用的教科書,大抵如下:

- 1 明治31年度“大日本史略”計二冊(與國體有關,屬於德育)
- 2 明治32年度“教育勅語述義”全一冊(與國體有關,屬於德育)
- 3 明治33年度“天變地異”(小幡篤四郎)“訓蒙窮理圖解”(福沢諭吉)(屬於智育)

前二者(①、②)授業中稍許被運用,③則完全被擱置,因為書房先生欠缺近代知識無法傳授。以上述改良教材能產生多大效果,留下些許疑問,但是改革書房、利用漢文藉以達成同化的目的是絕對沒有疑問的政策性企圖。

溫存漢文、漢字、改良書房、義塾的暫間妥協策略,在日本國內實際上受反對派前島密(漢字廢止論者)及矢野文雄(日本語ローマ字表記的提倡者)指摘,伊沢さん以明治33年1月13日在

帝国教育会新年宴会中提出的言詞作回答如下：

“今更漢字の悪文字存じることゝ喋々するの必要なし。何苦しんでか今より30年50年の後には白骨と化し去るべく老人に向つて漢字を棄てよと呼ぶるの要あらんや。数十年の後に日本の社会、組織すべき今の小学校の生徒に依つて我国の文字は自然に改良せらるべきなり。而して日本の仮名は能く支那文字の用に供すべき望あり。自分の日本の仮名を以て漢字と存じて支那に適用し得べきことが確信す。”

混合主義的存在,實際上已說明了現存住民傳統的文化及言語習慣不是那麼容易被消滅,国語的優越性也僅止於自己的幻想範圍,当然此現象與結果並非統治者所期待的,因此伊沢さん去職後,漢文科廢止論便躍上台面,事實上,混合主義在明治33年(1900年)便中止了。

明治30年領台初期,教育体系尚雜乱,学校設備不良,教学法不統一,社会治安不良,偏重国語教学風潮,教師們压力相当大,情緒非常不安定,国語教育現場乃以逐語訳的対訳方式教学,32年(1899年)採“グアン式”言語教学法(法人グアン氏提倡,以某一事項為主題,時間順序配合構成教材,以便記憶、習得言語,亦即觀念連合的法則),33年、34、35年,又因グアン氏過於拘泥時間、順序的配合,不須要的言語教授時間過於浪費,改行内容中心主義教授法(以教材的内容為中心而訂定教授順序),大正二年又改為一問一答方式,總之以漢文作媒介的逐語対訳法被淘汰了,亦即混合主義的任務目的已達成,自然漢文廢止論便成為主流意識了。

(3) 漢文廢止論(由明治33年開始)

漢文重視論(平井又ハ、公学校教師):以实用的目的、便利性的目的、教育上的目的的分別在台湾教育会雜誌及国語研究会上發表論文演說。

平井先生贊同日本語在同化政策上的重要性,但是以国語強烈行進日本化將造成国家腦充血現象,忠君愛国的德育精神教育,只是人間処世道德的一部分(否定伊沢さん德育教育的絕對價值觀),以日本語強迫灌入台湾子民,使其外殼擬似日本人型體,精神魂魄無法日本化,如同人間鸚鵡,不如以其知曉的漢文灌輸德智教育,使其思想思考日本化。(也否定伊沢さん德智教育的同化目的)

・漢文廢止論(橋本武、台湾總督府国語学校教授、グアン式教学法導入者)

橋本先生認為日本的忠君愛国国體論、教育勅語,基本上與孔孟思想為代表的儒家思想不一樣,日本語乃是日本人精神上的血液、日本国體的象征(上田万年的国語與国體論),同樣是漢文,以日本流訓讀與支那流朗讀,在其個人精神活動上有極大差距,畢竟支那文章內涵支那人思想感情,流着支那人精神血液。對橋本先生而言,漢文只是商業上以及與大陸貿易時的交通工具,在同化政策上,絕對是邪魔物。

論争在明治35年歲末落幕,結果書房、義塾漢文的傳授被制限,公学校授業時數縮減,新的教育体制被展開了。

漢文廢止論橋本派的勝利,連帶的国語在台湾統治同化政策上主導的地位更趨明確,明治31年公布的台湾公学校規則也由新成立的改正委員會加以修改於明治37年重新公布實施。(明治33年8月橋本先生受命組織諸学校規則改正委員會)

試比較新旧規則中第一條的内容,即可了解国語與国民性格養成間的因果關係。

旧規則:公学校ハ本島人ノ子弟ニ德育ヲ施シ実学ヲ授ケ以テ国民タルノ性格ヲ養成シ同時ニ国語ニ精通セシムルヲ以テ本旨トス。(国民性格養成與国語並列,因果關係不明。)

新規則:公学校ハ本島人ノ兒童ニ国語ヲ教ヘ德育ヲ施シ以テ国民タルノ性格ヲ養成シ生活ニ必須ナル普通ノ知識技能ヲ援クルヲ以テ本旨トス。(国語教導、德育施行以養成国民性格,主、僕關係一目了然。)

芝山巖學堂開創以來，歷經 10 年歲月，近代日本的國語觀漸次與台灣統治同化政策合體。

(4) 一視同仁政策的變貌(理念與現實的衝突)

高野孟距(台灣高等法院院長)去職事件(雲林事件)與六三法把台灣在日本法律上曖昧的地位顯像化。

明治 29 年，台灣中部雲林地區，蜂湧起義抗日，多數住民被虐殺，一視同仁統治政策下，台灣人民也是日本臣民，當然高野院長很自然的成為攻擊的目標，此外大規模疑獄事件被摘發，導致高野孟距非職，高野院長不服，提出憲法台灣施行論以及根據憲法第 58 條，法院長係終身官受憲法保障，上電中央，非職違憲論，引發台灣適否適用帝國憲法論爭。

六三法如前述乃日本憲法的異域僅限用於台灣，很顯然台灣僅止於植民社會的地位，非內地的延長，一如山本有造所指言，日本植民統治下的台灣，在法治上、政治上很明白的乃是日本的異域，只是以內地化作標榜，亦即在統治體制上積極宣揚一視同仁，法的地位上純屬植民地，因此日本國內通用的國體論模式(台灣人等於天皇的新赤子，因此一視同仁)，在台灣實際上是無法成立的。

植民地自体已否定了一視同仁，以一視同仁的教育構想、理念與政策作為出發點，實際上在統治體制與教育體制之間，產生很大的落差，在執行上也有很多的困難，如下述即可明白在新領土上(台灣)有關教育的實施方法形式以及程度基準的設定，由明治 31 年 9 月(國語教育研究所成立)開始至 32 年 5 月為止，共召開了 12 次會議，結論是以中流階級東京弁為設定標準，學力程度，六學年畢業後，相等於內地小學校 3~4 年的學力，亦即以低學力基準來編集公學校用讀本(上田萬年的弟子、大矢透先生以及杉山文悟先生主編)，公學校與小學校的教育內容又不相同，採二元主義的學力設定，當然現實上有許多不得不的原因，但是重要的是一視同仁的基本骨架僅淪為宣傳上的口號，此令伊沢先生意志消沈，加上稅收不足教育分配時，總督乃木大將對植民地教育冷漠消極態度促使伊沢さん萌生退職，非職後，學務部編制也減縮成學務課。

領台當初，統治經費乃以稅收來經營，而稅收的來源則仰賴地租改正，眾多因素造成地租改正無法順利進行，處處須依賴國庫補助，當然批評矛頭直指總督府，由此“カークード覺書”正式浮出(英人 W.M.H.Kirk Wood. 受託於台灣總督府，於明治 31 年提呈乃木總督的“台灣ニ関スル覺書”)，其觀點：多數台灣人修習日本語是好現象，但是日本行政役員修習台灣語較諸前者更形重要，普設國語傳習所是錯誤政策，有教無類、一視同仁更是荒唐，進學設限身元調查絕對必要，應只限於上層階級子弟，而且依通譯需要人數作為員額定數。

因為對於國語教育的目的，在植民經營原則理念上完全不同，當然顯現不同的結論，在國語教育體制上，カークード對伊沢さんの批判可以歸結成下述二點：

1 一視同仁、義務教育體制，將漸次壓迫財政，造成統治困難，不附合植民趣旨。

2 國語傳習所入學者，大抵抱持仕官志望錯覺，失望之餘，將導致政治層面隱憂。

理念與現實的衝突，導致伊沢さんの教育構想在明治 31 年(1898 年)7 月 28 日公布公學校令後(規定對於台灣人的教育經費完全由各該地域負擔。)完全壞滅。

結論：

武士是榮譽、責任、忠貞的集合體、化身，伊沢さん出生于中下層武士家族，先天上乘武士優良素質，居處中下層，庶民疾苦，冷暖點滴在心頭，不卑不華，平步接受官方培植，日後引為“國家主義教育”拓手，是非常自然的歸結，日清戰爭的勝利，台灣淪為日本植民版土，以脫植民地教育構想，一視同仁國語教育施策，推展文明的同化、民族的同化二大同化國家教育理念，依其政治理念，他是成功的國家主義教育立案人，但是以植民經營理念而言，對日本、對台灣，兩者都是失敗

者,若林正文教授曾直言:日本近代化植民政策乃是台湾人民族意識形成的第一源流,其根源即是由“民族的同化教育政策”所衍生。但是筆者想要說也期待着台湾教育主司者,在台湾基盤教育政策上需要多培植“台湾型的伊沢修二”国家主義教育者,以奠定台湾教育根基。

本文到此告一段落,往後的植民化教育政策,將由後藤新平(民政長官)以及持地六三郎(學務課長)コンビ推行展開,对台湾的教育政策又将產生如何的變化與影響,請待下篇,謝々。

中国でも資本主義万歳

丘 哲治

21世紀は資本主義の世紀になるのでしょうか?恐らくこの設問は、1980年代では誰もが答える前に躊躇したでしょう。20世紀の初頭から世界は資本主義と共産主義の二大イデオロギを巡り、争って来ました。世界が東西両陣営に割れ、半世紀以上に亘って両陣営がこの二つの主義を巡って火花を散らしました。しかし、80年代の終わりにはその答えが明白になって来たように思います。共産主義が高々と掲げる理想は破産し、桃源郷が阿鼻地獄となり、経済や政治の運営がすべて行き詰まり、各国の共産党がドミノのようにぱたぱたと倒れてしまいました。冷戦構造が終わり、東欧諸国が共産主義を放棄し、国を自由社会に変えて今の世界に至っています。資本主義の良し悪しは考えずにも、21世紀は確実に資本主義の世紀になりつつあります。

現在、世界中でまだ共産主義を堅持する国は、僅か数ヶ国しか残っていません。しかもこうした国々のほとんどでは政治が不安定であり、経済的にも苦しい国が多く、世界の繁栄から取り残されている状態にあります。

その様な国際情勢の中、世界で最大の人口を誇る中国では国家体制を維持する為に、今でも共産主義を硬く堅持し、共産党の一党独裁制度を放棄していません。しかし、経済政策については市場原理の自由経済を取り入れています。経済の運営は共産主義を捨て、資本主義の理論を実験している最中であり、人によれば日本以上に資本主義を取り入れている説さえあります。また、資本主義は中国において、時代によってかなり違う評価を受けているようです。例えば文化大革命の時代に、国の行政機関である「対外経済貿易部」が「売国部」とまで呼ばれる時期もありました。民間レベルでも、いわゆる「走資派」のレッテルを貼られ殺された人が無数にいた事は、今でも皆の記憶に新しいところでもあります。当時、全国民の敵である「走資派」は一転して現在、我が世の春を謳歌する「走資派」となり、他人の羨む対象となっています。しかも、この新しい「走資派」は共産党

の幹部及びその二世が先頭に立っているのです。政治の権力独占を経済の権力独占に変える形です。資本主義の構造自体は変わっていませんが、中国で時代によってこれだけ扱いに落差があったことについては、自由主義経済学の創始者であるアダム・スミス氏(「富国論」の作者)も思ってもいなかったでしょう。

“政商“という言葉はどの国でもありそうな話ですが、共産中国においては、なにか違和感覚えさせます。共産主義の理想を高々と掲げているのに、一方では一部の人が権力と富をすべて独占しています。これは中国の事情で、我々外国の人間が口を挟む権利はないかもしれません。しかし、現状には資本主義の恩恵を受けるのは一部の国民だけ、9割以上国民は未だに共産主義の恩恵を受けています。国民の間に生じた貧富の格差は非常に大きく、沿海部と内陸部或いは都市部と農村部との地域の格差も開く一方です。中国が資本主義の経済運営方法を取り入れることは良いことだと思いますが、それと同時に資本主義的な社会保障制度(社会保険制度、累進課税等)や自由思想や民主的政治手法も一緒に取り込まなければ、いずれ人民からしっぺ返しを受けてしまうでしょう。この歪みを上手く解消しない限り、いつか何処かで混乱が生じるはずで、最近の農村部で反政府、反官僚活動や都会での失業者の抗議活動はその代表的な例ではないでしょうか。

一方、世界も中国がこうした生半可な資本主義の実践方法に手を焼いています。古来から中国は法制国家ではなく、法治国家というより人治国家でした。それはつまり、時の権力者の好き嫌いが世の中のすべてを物言う国柄です。法体制は整っておらず、しっかりした法律が制定できない国です(権力者を守る法律だけはきちんと整備していますが)。当然ですが、ある日に国が急速に発展すれば、法整備が間に合わなくなります。たとえ法律が出来ても国民が遵守するとは限りません。これでは諸外国との貿易摩擦が起きても不思議ではありません。

そもそも、中国人は法律を順守する民族ではないようです。国でさえ国際法を守っておらず、例えば日本が持つ排他的経済水域は自分のものと思って平気で入り、春暁油田を採掘しています。潜水艦も国際法を無視して日本の領海を侵犯し、ことある度に国が先頭に立って一部の無法の国民をバックアップし、自国の国益のためなら法をも犯します。こうした事例を挙げればきりがありません。国民は諸外国の企業が持つ著作権や特許権等の知恵財産権を尊重する気持ちも毛頭ありません。手当たり次第で外国のあらゆる商品をコピーしたり、ブランド名を勝手に使用したり、作られた違法のコピー商品は到るところで売られています。これは、清王朝末期からの革命運動、その後の軍閥による内戦に続き、二次世界大戦と国共内戦等の戦乱、それに90年代まで現中国政府が行なった一連の失政(大躍進、文化革命等)により、100年近く中国人が混乱と極貧の生活に陥った結果のように思います。餓えにあえぐところから芽生えたハングリー精神や知恵で、資本主義のルールを無視しても、利益にさえあればなんでもやっているのです。ひたすらにお金を追求する結果でしょう。

中国が2001年にWTO(世界貿易機構)に加入して今年で4年目に入りました。そろそろ(2006年)、WTOが提唱する自由貿易のルールと精神を被せられる時期になります。資本主義の真髄である平等の上に立ち、人間同士や国同士が自由競争と自由貿易を行なうのは当たり前のことです。中国は開発中の国ですから、先進国は今のところ静かに見守っていますが、将来的には静観をやめる可能性はないとは言えません。以前、日本が資本主義のルールを守っていたにも関わらず、アメリカ国会議事堂前で米国の国会議員がハンマーで日本製品を叩き潰す異様な光景が見られました。その後、日本のバブルは弾け、未だに経済的には回復せず苦しんでいます。中国の安い人件費に目をつけた短絡的な外人投資家によって投資が進んでいる結果、あらゆる製品の生産量は増加するでしょう。中国製品が氾濫することによって、米国国会議事堂前の光景を再び目に

することはないとは言いきれません。しかも今度はルールを無視ですから、もっと悲惨な目に会うかもしれないのです。

まさに今、中国の経済運営は、対外的にも、対内的にも十字路口に立っている状況にあります。国内においては、前出のように中国の社会安全保障制度の不備によって、社会不安がくすぶっています。また、捻じ曲げた資本主義の解釈により、財政赤字は国際警戒ラインに接近していますし、国債依存度も警戒ラインを超えています。金融システムも不安視されており、銀行が抱える不良債権額は天文数字に達し、一旦外資が撤退すると、97年のようなアジア金融不安が再燃しかねません。こういった課題が一気に表舞台に出ますと、日本が経験したバブル崩壊は中国でも起き得るでしょう。

国際的には、中国国内の不安定さが増すと、国際情勢にも影響しかねません。特に近隣諸国の安全保障が受ける影響は計り知れないのです。国内の混乱が国際問題に発展しないように、中国が上手く事態を収拾することは、周辺の国々の願いであり、祈りでもあります。

自由主義経済学の創始者であるアダム・スミス氏は、資本主義は経済の自由のみならず、思想、政治も自由でなければならないと力説しました。しかし、共産中国は経済運営以外、あらゆる面で規制を行うものです。中国が今のようにならずと社会主義的資本主義を押し通せるかどうか、疑問視する人は大勢います。10年、20年後に、資本主義が中国においてどういう風に位置付けられるのか、非常に興味深い問題ではありますが、わたしは中国全体の国民が「資本主義万歳」と言えるよう、勝手ながらお祈り致します。

組織力の真意

東 昌明

日本台湾医師連合が発足してから早くも3年が経とうとしています。新旧役員入れ替えの調整が済みまして、今回又錚々たるメンバーが集まってきたようです。それは非常に嬉しく、また有難いと思います。実は組織活動を経験した人にはよく分ることですが、有能な役員の確保はそう簡単ではなく、ある程度会の実績を上げないと人材の群が寄り付かないのです。ある意味では、本連合の執行部が認められているでしょう。

さて、リーダーの資質とは一体どういうものでしょうか。人柄のよさ、度胸、判断力などさまざまなファクターが挙げられます。実際のところ上記のファクターを持っている大勢の仲間の中でリーダーになれるのはまたほんの僅かです。原因はどこにあるかという、実に解答は明快です。つまり組織力の真意をどのくらい理解しているか、まだ誠意ある姿勢をどこまで持ち続けるのか、本物のリーダーがそこに寄与しています。

有能な役員から、一人一人の個性と特長をどこまで引出せ、そしてその能力を如何にして生かせるかが組織力の真意の所以なのです。会長は指令を出す司令官としたら役員は幕僚です。各方面から集まった情報や資源を迅速に役員達に伝え、常に執行部の仲間と思考を共有する以外、幕僚の motivation 及び参画意欲を高めるしか方法はないのです。役員さらに全会員の意欲をか

き立てれば、組織力のスイッチは自動的に開き、そしてそのための成功の種もうまく蒔くことができます。

苦言に対し、トップの人間は真剣に耳を傾げなければなりません。心を開き、全身全霊取り組んでいく姿勢を構えなければなりません。これこそリーダーに求められている資質というものです。

高い所にいると実に寒く、また孤独で寂しい。常に哲学的考えを持ち、会の目標を議題にして、役員達と相談しながら目標を近付いていくほかないのです。申し分のない人材を呼び寄せた今、新たな出航の前に、役員達を辱めめないようにまた、共に頑張れるように期待したいです。

“台湾系日本人”という怪物

—once Taiwanese, always Taiwanese

王 紹英

アメリカに多くの台湾人が活躍されていることはあえてここで説明する必要もないでしょう。しかし、彼らは台湾人でありながらアメリカ人である。要するに日系アメリカ人とか中国系アメリカ人とかと同様台湾系アメリカ人と言うべきである。アメリカ人としての identity を持っているかどうかは分からないがアメリカ国籍を持っている。

台湾系アメリカ人或は台美人とも称される台湾出身のアメリカ人は、堂々と台湾の出身であることを誇りに思っているかどうか別として、恐らく隠そうとしないでしょう。アメリカにいる台湾人の努力とアメリカの民族的な構造もあって、台湾人の出自を隠さなくても何の支障もないし、また外観の先天的な条件で隠しようと思っても出来ない相談だからだ。

とにかく、台湾系アメリカ人と胸張って言えることはちょっと羨ましいと思った。

日本にいる台湾人はどこか引け目を感じながら日本社会の「辺縁」にがんばっていると思われる。外観だけで台湾人と日本人(日本原住民を指す)の区別はつけにくいので、日本語をさえ喋らなければ台湾人であることはばれる恐れもない。いくら日本の同質性の裏返しである排外的な社会性によるとはいえ、台湾出身であることを隠すのはなんとなく情けなさを覚えざるを得ない。しかし、純粋の日本人は何の尺度を持って定義するのでしょうか。日本には多くのひとが南北から渡来したのではないか。それを考えると日本人も何々系の日本人の集まりであることに違えない。日本の芸能界に多くの朝鮮系韓国系の日本人がいることはよく言われる。しかし、だれひとり自分は朝鮮系日本人であると言った覚えはない。

日本に数え切れないぐらいの台湾人団体がある。勿論かつての国民党の傘下組織の幽霊団体も少なくない。そんなものは話にならないので、ここで言っている台湾人団体に入らない。我々の周辺にいるある程度のいわゆる台湾意識を持っているに違えない団体を考えてみましょう。

日本台湾医師連合を除いて、全ての台湾人団体はあくまでも台湾人であることを強調しすぎるほどにうたっている。しかし、中身のひとびとはほとんど「日本人」ではないか。ようするに台湾人団体は台湾人と日本人の二面性を持っていながら、台湾人の側面しか強調しないふしがある。

日本の国籍を手に入れ「台湾系日本人」になるまでは皆相当苦勞されたに違えない。「台湾系日本人」になるまえ、日本人に差別され、バカにされた経験は枚挙の暇かない。心の奥には日本人に対してどこか嫌みを感じないこともないと思う。したがって「台湾系日本人」になっても、自分は「日本人です」と言い出す台湾人のやつに対していやらしさを覚えるのでしょうか。また、自分が「日本人です」と堂々と言えない後ろめたさ、恥ずかしさがある。

日本社会はこのような「台湾系日本人」を如何見ているのでしょうか。私は、日本人は「台湾系日

本人」を日本同胞として見ていると思えない。我々が台湾に関心を持っている日本人(日本原住民を指す)と一緒にすることは少なくないが、このような台湾に好意を持っている日本人は我々のような「台湾系ニッポンジン」をあくまでも台湾人として付き合っていると思われる。心の壁というところとちよつと大袈裟が、どこか日本原住民の中に溶け込めにくいところがある。それは、日本社会に漂っている「均質的な社会」という幻想あるいは強迫観念とでも言うべきものによるのか、言語のハンデによるのか、よく分からないのである。

こんな台湾系日本人をだれも日本人を思っていないのが現実かも知れない。台湾系日本人は日本のパスポートともっている台湾人に過ぎないと台湾人も日本人(日本原住民を指す)も思っている。いわゆる一世の台湾系日本人が特にそうである

しかし、故郷台湾に貢献したい気持は台湾人も台湾系日本人も同じである。そうなら台湾系ニッポンジンのもっている資源を十分利用しないことはない。台湾系日本人と台湾人としての違いといえば、日本人としての国民の権利であり、政治家に物を言わせ、国に意思決定にもなる選挙権であろう。この選挙権を武器にして日本の政治が少しでも台湾に対する風向きをよくすることは期待できる。

このような発想で日本台湾医師連合がだれも言わなかった台湾系日本人のような聞きなれない用語を使った。言うまでもなく選挙権を意識した言葉であった。選挙権こそが実力である。

おそらく日本台湾医師連合が日本の歴史上最初に何々系日本人という造語をうたった団体である。破天荒的な造語と言えなくもない。この破天荒の台湾系ニッポンジンという謳い文句と心構えは多くの台湾人の響きを買ったに違えない。

「ジップラン!チョコシラン」(日本人!笑死人)

と多くの台湾系日本人に怒られても仕方ないと思う。しかし、それは日本台湾医師連合の志しと戦略を認識していないとしか言いようがない。よく考えていただければ、台湾人として日本に活動するよりも日本人としての活動のほうが有利であり、より力になることは火を見るも明るい。

私もつい3年前に日本に帰化した。(帰化という言葉はどこか中華的な尊大さが有ってとってもいやらしく感じる。)日本国籍を持っている以上、額面上日本人ではあるが。しかし、胸に手を当てて、自分は正真正銘の日本人と言えるかと聞かれたら、私は汗顔で躊躇せざるをえない。

はたして、私は台湾訛りの日本語しか喋れない、日本の歴史にも明るくない、枕草子も源氏物語も読んだことはない、まともな文も書けない、盆踊りをしたこともない、日本社会のしきたりも心得ていない、漫才の面白さもよく分からない、能を見ようと思わない、歌舞伎もさっぱり解せない、正座したらすぐ足がしびれる、浴衣を着ればぎこちない、袴を着れば硬直になる、おじぎよりも握手をしたがる、懐石料理よりも台湾料理を好む、日本的美の侘も寂も心にじんと来ない、などなど、書ききれないほど私には非日本的なところが無数にある。皮を剥くと私は台湾土人である。

私は子供に自分の出自を隠さずに生きていってほしいと願っている。むしろ台湾人の後裔であることを少々誇りにしてほしいと思った。恐らく同じ考えのひとも少なくないでしょう。それなら台湾系日本人であることをあえてこの「均質的」な日本社会に声を上げることは我々親としての責任ではないかと思う。

日本台湾医師連合が台湾系日本人の一面を浮き彫りにする目論みは故郷台湾に力になるのみならず、我々次の世代の精神面にも大きな支えになると期待できると思った。台湾が立派になれば、台湾系日本人を含めて台湾人の精神的な高揚につながることは言うまでもない。自分の親の

出身を隠すようなみじめな生き方をしてほしくない。

娘は中学生のときに台湾系日本人になった。すこし難しい年頃でした。はっきり覚えていないが、いつかの親子の会話だったと思う。私は彼女に日本人だからどうのこうのでしょうと話した。そうすると、日本生まれ日本育ちの彼女は神妙な表情で私の顔を見つめてこう返事してきた。

—Once you're Taiwanese, you're ALWAYS Taiwanese.

この生意気の言葉で私は妙に嬉しく、ちょっと感動を覚えた。

亮島小夜曲

武田守祿

1978年4月16日、在服預備軍官の第2年、我由馬祖北竿島搭3小時的船抵達亮島「亮島」這個島名對於大家一定很陌生、去過馬祖服役的戰友們、一定知道南竿、北竿、東引、西引等島名、但是知道亮島的人大概不多。

亮島位於馬祖列島前哨、介於北竿與東引間(參考馬祖列島位置圖)、由台灣開來的補給船(中字號)、一定先在北竿島卸貨、第二天再前往東引島。在1978年、兩岸還是處於交戰狀態、所謂的單打雙不打、蔣家王朝喊著「反攻大陸」「消滅萬惡共匪」的時代。因此守護良島的目的是在保衛台灣來的補給船、免受中共魚雷快艇的騷擾。

奉令前往亮島的前一天、衛生營營長召見我、他說：「蘇醫官、亮島是個很艱苦的地區、沒水、沒電、沒百姓、去那裏的醫務所服務、任務是照顧島上的300多位官兵、在最前線要特別注意安全、身體請多保重。就這樣背著軍用大背包、懷著惶恐、不安的心情、我登上了亮島。亮島是個很狹小的島、由東邊走到西邊還不到一小時、四面都是懸崖峭壁、有點類似蘇花公路的清水斷崖、懸崖絕壁裏面藏著砲台、機槍陣地、好像一艘不會動的戰艦、威武地浮在海面上。

由碼頭沿著30度的斜坡、走到亮島醫務所已是滿頭大汗、中山畢業的內科醫官及二位衛生兵、還有3匹狗在門口歡迎我。島上沒有一顆大樹、所見的都是迷彩雕堡、醫務所也不例外、只有大門沒有窗戶、晚上為了安全關起門後、相當悶熱、好像在三溫暖裏面汗流夾背。就這樣開始亮島的原始生活、沒瓦斯電氣、因此煮飯燒水都用煤油爐。沒電燈、晚上點蠟燭或用手電筒、喜歡登山·露營的我、還沒有什麼不方便的地方。最難忍受的是「沒水、島上只有幾個很小的水庫、所以水是很珍貴的、一星期沒洗澡是很正常的事。若上下大雨時、整個島上的官兵都脫光光跳曼波(沒有女人的世界)、快把水筒臉盆都拿出來存水。食也是很頭痛的問題、島上水、風沙大、因此無法種青菜、補給船大約一星期由北竿來一次、送來肉類(大多是鹹魚、肉)、蔬菜(大多是馬鈴薯、菜頭)以及一些日常用品、但若上對方在軍事演習或風浪太大時、只好每天靠罐頭過日子。

亮島只有300多位官兵駐守、卻有100多匹狗做伴、大多是雜種狗、只有1匹中士階級的軍犬(又壯又凶狠的狼犬)、每晚在碼頭附近巡視。每個雕堡至少都養有2、3匹狗、主要目的是防止對方水鬼上岸、方面島上沒有任何娛樂、沒有音樂、沒有報章雜誌、狗會陪散散心、排遣寂寞。

亮島在台灣的軍隊進駐前、稱為「浪島、係因風浪湧而名、後因政治宣傳的關係、取自

「照亮大陸」島立天中、而改名為亮島。馬祖的黃魚相當有名、亮島是最大漁場、每到晚上、島的四周都是中共漁船的燈火、相當壯觀。漁船太接近亮島時、指揮官就下令「警告射擊、每晚幾乎都可以聽到機槍聲、剛來時緊張的睡不著覺、以後習慣了、槍聲反而變成催眠曲一樣。

在亮島最難忘的是地雷的恐怖、島的四周都埋有對人地雷、工兵排每個月都要定期「排雷」（舊的雷除去）「埋雷」（埋設新的地雷）、那是相當緊張、恐怖的工作、醫官們必須在旁隨時待命。很不幸的有位來自嘉義的戰士踏到了舊的地雷、右腳掌都炸掉了、急救了8小時才保住了生命、他那痛苦的臉孔還深深的在我的腦海中。蔣家王朝為了「反攻大陸、解救大陸苦難同胞、犧牲了不少台灣的戰士。為了鞏固金門·馬祖、命坑道、做砲台、浪費了相當多的資源。現在的金·馬已開放觀光了、軍事地位也沒有以前那麼的重要、有人主張放棄金門·馬祖、也有人建議在那裏做飛彈基地、可以就近攻擊上海·廣州、不知各位的意見如何？

在槍聲、浪聲、狗叫聲中、度過端午節、也度過了27歲的生日、8月11日接到部隊移防台灣的命令、離開了服務117天的亮島醫務所、也結束了又緊張又寂寞的日子。這是我一生中最不可忘懷的回憶。28年後的亮島再也聽不到砲聲、機槍聲、但亮島醫務所是否仍然無水、無電？

来自台湾的黑狗兄

中山博雄

台湾人選出的總統，到外国訪問送紅包時，還被当地的媒体報導「歡迎来自台湾的總統、蒞臨本國訪問」的標題登在雜誌報章上，看得令人覺得很不妥當，不知各位有否同感。台湾人民正々當々選出來、道々地々の總統先生，去外国訪問花錢，還要受人氣，難怪老百姓要起來打報不平、爭個面子。台湾總統的頭銜上還要加上「来自」台湾總統，硬要分成台湾「的」總統，別有用心，未免欺人太甚。美国大總統來訪問時，總不會寫成為「来自美国的大總統」，多斃拐。從台湾來的吾輩黑狗兄弟也不例外，自称自己是「来自台湾的黑狗」，免得遭到無謂的騷擾，才是聰明之舉。

不知為什麼，從小就被左隣右舍的親戚朋友叫我「黑狗仔」，大概小時候住在鄉下，愛玩愛跳，成天都在外面玩，大人忙的時候，要幫忙牽牛去吃草，等牛吃草的片刻，就和住在隔壁的阿狗阿貓的堂兄弟們玩，敲銅鑼、捉迷藏、打彈珠、チャンバラ等々，是一天中最快活的時刻，有時候玩得忘記回家，被大人追來臭打一頓。天々在外晒日頭，不黑也得黑，黑油油地還會發亮，就像糖廠的煙突管，臉長得又像狗，所以才會被叫做「黑狗」。一天到晚被叫「黑狗仔」，有時候調子不順，情緒不好，會和別人衝突打起架來。打敗氣不過來就去問阿媽，為什麼別人叫我「黑狗仔」，阿媽安慰的說：「乖孫仔，不要緊，黑狗是好狗仔，是有情有義的忠狗，只是ka 愛美，ka 愛裝」黑狗本來就不是壞狗，也不是敗家之犬，只是皮黑毛黑，看起來比較兇悍而已，心地善良。阿媽的話、聽了心裡就稍微舒服，儘管別人再怎樣的叫我罵我黑狗的不是，都可忍下來，心平氣和地不把它當成一回事。長大之後，自然成了兄長輩，順理成章的被尊稱「黑狗兄」。

黑的顏色，在漢人、東方民族裡常代表不吉祥、或是兇惡的顏色，通常在喪事、披麻帶孝時才穿戴黑顏色的服飾。平常的日子穿黑色的衣服，會被認為家有喪事，要不然就是精神異常者，定會受到白眼相看的遭遇。那些經常打架滋事、不務正業的地痞流氓、竹鷄惡棍等兇惡分子、被稱為「黑道人物」，這等人物生存的空間，就叫為「黑社會」。總而言之，被冠上「黑」字頭的，大部分都不會是好事。黑狗兄弟在這樣先入為主觀念下的環境裡，受害匪淺，生來就無可奈何的背上黑鍋，印上兇惡的標緻，很衰、很不公平，想要好々地過日子也不簡單。台湾人迷信見到黑烏鴉、黑狗、黑貓，那一類的飛禽走獸，彷彿見到不吉利的東西，惶恐會招來壞運，能避之則避之，能驅之則驅之，黑狗、黑貓没人要，被發現反而要被挨打挨罵，就像以前的黑人一樣，非常的自悲自嘆，怨嘆月媒為什麼沒把我們生成チャールス・M・シュルツ先生筆下的スヌーピー花狗，一生受人寵愛。

幸好，大約十年前，在日本、在東洋人的圈子裡開始有些人喜歡黑顏色的衣裳、手飾，在正式高級的場合，黑礼服、黑礼帽、黑色的裝飾品顯得高貴無比，喜歡的人愈來愈多，甚至在平時也有人愛用黑色的衣物、副屬品、掀起了一陣黑旋風，愛人要找黑人，寵物要找黑狗黑貓，從來没人問津的黑色ペット，頓時成了搶手貨、否極泰來，世間事永遠沒有一成不變的道理，最近家的玄關前，

常有2頭大黑狗來散策，有時候來不及到公園方便，就在路旁解決生理問題，看在同色同種的分上，沒轟走他們，黑狗終於有人喜歡，心裡很欣慰。

日本的「犬」，命真好，吃穿玩樂樣樣好。吃電視廣告的ペット食品、冬天冷了有衣穿、有ワンピース、ツーピース、宥有盡有，任君選擇，搭車上路ドライブ是家常事，坐ホテル、或是フェラーリ等名車兜風也不稀奇。早、晚兩次外出散步健行、舒鬆筋骨、呼吸新鮮空氣、轉變氣氛，同時解決糞屎問題是日常慣事，上寵物美容院、住動物旅館，生病時沒國保、社保，去動物醫院找獸醫師看病，醫藥費須全額負擔，往々比飼主本人的醫藥費還要貴上好幾倍，讓我們台灣來的狗兄弟瞠眼、投給日本犬最大級羨慕的眼光，那兒像我們弟兄在農家豬舍旁和鷄鴨搶殘飯吃、瘦巴巴只剩皮包骨、一副狼狽相的台灣土狗，溫飽成問題，談何享受，想也不敢想，連邊都沒有，同是狗類，只是國別不同，受到的際遇天差地別，狗比狗，氣死狗也。

冬天，天寒地凍，東洋許多地方的人士有吃補過冬的習慣，預官役時，軍中渡過兩次冬天，北台灣也是蠻冷的，單身無依的老芋士官們也自己進補，而他們專捕黑狗作材料，經過老士官們的房間前，總是香噴噴地，偶而可聞到一股強烈的藥味，懷疑有匪諜放毒，身為醫官責任重大，查出異味的來源是職責所在，義不容辭，打開士官室的門，原來大家圍着爐子熱烈地在進補，吃々唔々地不想說清楚吃些什麼，個々吃得心滿意足，笑迷迷地嘴都合不上來，彷彿已見到華西街的娘子向他們擠眉弄眼招手似的，幾位較懂事的老士官開口問醫官也是否來碗燉狗肉補身子，據說黑狗肉是補品的王中之王、極上品，吃過黑狗肉的藥膳，上了那個永遠打不贏的戰場，可一展雄風，無堅不摧、無往不利，一家燉肉萬家香，上自營長、下至輔導長通々有肉吃，那時還年輕不懂事，只聽老士官們講的上半句話「吃狗的肉」，已心涼半截、渾身不對勁，胃底翻騰想吐為快，藉口有事要辦轉身就溜，如能聽完下半句話，做個判斷，如所言那麼有功效，勉強吞了一碗，說不定也能強壯如牛，耕田百畝也不覺累。好不容易混完預官役，做了一段工作，想如果一直留在台灣，有天萬一狗運不濟，被誤認是真的黑狗，被抓去宰了當冬天補鍋內的香肉，那才悲哀，終於下定決心揮別故鄉親人，出國留學，來這裡和日本狗友作堆，倍嘗辛酸，剛來時，和這裡的朋友閒聊問題時，不小心把「犬」字寫成「狗」字，讓朋友們看了半天還看不懂「狗」字是什麼東西，原來日本已經沒有「狗」字漢字，只寫成「犬」字即可。

其實在台灣，冠有黑字頭商標的商品，有許多是暢銷貨，幾乎成了名牌貨——BLEND 商品，就像黑松汽水、黑松沙士、黑人牙膏、黑橋牌香腸等々，在我們年青的時代，這些商品，家喻戶曉，天熱口渴就喝黑松汽水、做粗活渾身大汗就喝黑松沙士，天經地義地成了慣事，不像現在產品花樣多，果汁、可樂樣樣有，不知選什麼才適口。這幾年春末夏初回台灣打球，天熱湿度高，沒一下子就滿身大汗，同學們吩咐キャディさん包個黑松沙士加冰塊的飲料來解渴，黑松沙士現在還是那麼暢銷，台灣對它的止渴解熱的功能，信心十足。

最近有機會到附近的亜細亜食品雜貨店，竟然發現黑人牙膏，又驚又喜，在日本可買到黑人牙膏，令人興奮。真不得了，從小到大使用的牙膏，包裝再怎麼變，「黑人牙膏」四個大字，總會記著的。第一次到成功嶺當少年兵，床下的洗臉用具——清一色的黑人牙膏，排得井然有序，黑人商標頭上的帽子一齊朝向孫中山、尾部朝向蔣介石的肖像，從先頭的一位到最後的一席黑人牙膏排成一條線，只要見過一次此景，定會終身不忘。到了外國的台灣人還愛用黑人牙膏，根性實在很強。

老是談黑色的顏色，大家一定會覺得很膩，就談々別的顏色的東西。黑色的上衣配上 ka 其色的ズボン、裙子，覺得如何，好看好看？不覺得有什麼特別？這幾年是否發現 ka 其色的衣物類在流行？到那裡都有人穿 ka 其色的衣服，百貨公司的服飾專櫃、紳士館、運動服裝店，到處掛滿擺滿 ka 其色的衣物，想找件不同顏色的衣服、ズボン，真不容易，街上、車站、電車內、百貨公司、甚

至高爾夫球練習場、球場,沒看到沒人穿 ka 其色服飾的日子才是怪事。那麼平凡的顏色,竟然會大大地流行起來,令人不能相信。有一次在高爾夫球場上,同一組的球友們,都穿了同樣的 ka 其色的ズボン,彼此都覺得好笑,看々別組,也是穿同樣顏色的球友大有人在,儼然像是暴力團組員的抗爭球賽大會。回想到高中時代上軍訓課的情景,同學們都穿 ka 其色的制服在操演,小學到大學、或是中學到大學,去學校就要穿的校服的顏色,就像從小學到高中時理光頭一樣,從心底有百分之百的拒絕感,這一生最不想再穿的顏色,竟有那麼多人欣賞愛穿,真是不可思議。

近來幾個月,黑狗兄弟在公園散步時,走不到三、四百米,就開始打十幾次的噴嚏、流鼻水、腦袋腫脹,顏面發赤,兩肩硬直,上半身微々振動,下肢發軟,全身輕飄飄的感覺,慢々地走了一段路後,再開始ランニング就像雞飛狗跳(Chicken fly Dog jump),越ランニング越輕鬆,無遠弗屆,然後,眼前映出一片青蒼翠綠的山脈,玉山遠々可見,耳裡傳來「阿里山的姑娘美如水,阿里山的少年壯如山」的歌声,高山青,澗水藍,又回到故鄉似的,興奮無比,當初以為是臆病,沒想到幾位狗弟兄都有同樣感覺和症狀,幾經歸納與調查,都還沒有人發表過的疾病似的,是否發現新的症候群?在戶山公園發生的,所以暫稱「戶山公園快走慢 症候群」。

每到秋天,大約是十月~十一月之間,瑞典的首都——赫爾辛基會發表當年諾貝爾獎得主的名單,雖然自己永遠不會是候補者,只因小時候就很關心這個獎,所以公布得獎者心裡總是怪々的,不知為何,記得小學五年級上學期國語課本的第十課,介紹諾貝爾博士的生蹟和諾貝爾獎的由來,其中提到有兩位中國人得過物理獎的事情,感到很有興趣,開始對諾貝爾獎起了關心,有空就找書報、查資料,發現諾貝爾獎歷年的得主沒有中國籍的人士,怎麼跟課本上寫得不一樣,很氣的就去問老師,老師回答得很含糊,說那兩位先生「以前是中國人,現在是美國人」,1950年代,土生土長的台灣小學生,那聽得懂老師的說法,心想中國人怎麼那麼厲害可以變成美國人,再怎麼想也想不通,美國人就是美國人,中國人就是中國人,怎麼可變來變去?到底是那回事?中國人會飛天鑽地實在了不起,等稍長大才恍然大悟,原來是那一回事。剛到台灣不久的外省人有機會就留學美國、移民美國,無心留在台灣建設台灣,因為台灣不是他們的故土,沒有絲毫的感情,只怕阿共萬一打過台灣海峽,他們沒逃生的地方,先走為快,爭先恐後紛々投奔美洲大陸。老師的話「先為中國人,後成美國人」,含意深遠。

小々的心靈,非常憧憬那偉大的諾貝爾獎,心想如能和諾貝爾獎沾個光,就是只能摸々諾貝爾獎的末座,不是真正的大獎也會心滿意足,既可光宗耀祖,還能為國爭光,面子不知有多光彩。得獎的機會,隨著年齡的增長而成反比,愈來愈低愈渺茫,日本留學本來就是和往諾貝爾獎得獎的方向相反,日本研究者的得獎者本來就不多,外國人來日本的研究者是掛零,日本學者的得獎率不到百分之五,所以來日本留學要得諾貝爾獎,有如登天之難。令人心灰氣餒。還沒離開教室下放到辺遠的衛星病院之前,每天從清早到深夜,夜以繼日、不眠不休地做實驗寫報告,發表自以為有世界水準的論文、和大概還压在退休教授研究室某一角落還未登出的論文,或許已一文不值廢紙一堆,必竟諾貝爾獎不是隨便亂蓋即可得的世界大獎。

聆聽過諾貝爾化學獎得主李遠哲博士兩次的演講,由衷的佩服偉人的奮鬥歷程、和對國家的關心、與未來前途發展的構想,李博士說他從沒有過要得諾貝爾獎的野望,獎却落在他的身上,背負諾貝爾獎得主的重担,反使得他更需要向上,任重而道遠,又說從小發誓要得獎的人,反而會落空,希望大失望就更大,勉勵大家落實的幹,有天總會出人頭地。從小就做諾貝爾獎白日夢的黑狗兄,頭上就像被李博士的這番話打了一棍。腦裡混亂迷糊,腦細胞腫脹充血,久久不醒。惡夢連々,無精打采地過了一段日子。有天,突然醒來發現,不要傷心斷志,諾貝爾獎除了醫學生理獎之外,還有物理、化學、經濟、文學、與和平獎,雖是離開學術研究機構,要獲得與科學有關的獎大概機會很小,但是文學與和平獎還留著機會給各位,諸君奮鬥努力不懈的話、總有扣諾貝爾

獎之門的日子。有期望就有希望，有希望的人生，才会充滿活力，生活才会快樂。但願小小的「戶山公園快走慢症候群」和與它有關的研究報告能帶來大々の好運，像田中耕一先生那樣幸運地，從天掉下諾貝爾化學獎給他。

學生時代見到自己欣賞的那一類型的女生，總會情不自禁地偷偷地多看幾眼，有時不小心被發覺，不但遭來白眼，還加上被罵「神經病」，「神經病」嚴格地說應該是「精神病」才對，是整個メンタル、精神狀態上的問題，屬於精神神經科的範圍，不是單純的那條、那對、那個腦域內的病變，由腦神經內外科看々就可以的疾病，精神病可從輕微的「不安症」「憂鬱症」「性的騷擾症」、「性變態症」等々，到嚴重的「躁症」「精神分裂症」等々，不容易治療，費事費時，難以根治，被罵「神經病」，其實是「精神病」，女生的口頭禪，有時也要反省，看々精神科醫也有必要，聽而不問、病入膏肓成了不治之疾，藥石無效，後悔莫及。

中國大陸那群領導人，一直都在窺伺台灣、覬覦台灣，無時無刻幻想侵犯台灣，很有資格被罵「神經病」，根據精神神經疾患診斷ガイドライン記載的準則，毫無疑問地該診斷為最重症的「精神分裂症」，現改為「統合失調症」，依照EBM的治療基準，那群頭腦有重病的領導人，通々要抓去做「電擊療法」，好讓腦子清醒過來。

領導人物應該能識時務為俊傑，自然的規律法則、時代的趨向潮流，不能抵拗阻礙，光做那些不合時代、不合邏輯、不合情理的笨事，總會傷人傷己、傷人感情，遺害萬世。大智若愚，眼光放遠，才能創造歷史，永垂不朽。縱然，台灣與中國大陸，從盤古開天到現今，在地緣上、歷史上有多深的關係，最重要的是這一百十年來，台灣與中國之間已發生化學上不可逆的反應。一個窮困潦倒不爭氣的老父，把一大堆子女中、最不喜歡的病兒子送給人家當養子，兒子在外吃盡苦頭，幫人掃地、洗碗、擦鞋、拉皮條，樣々苦差事都忍氣吞聲的埋頭賣命幹，終於成家立業，事業發達賺了大錢，有點門面的時候，窮老子，看到送給人家當養子的無緣兒子，眼就發紅，千心萬計要叫兒子回家，在這個進步的二十一世紀，一點道理也沒有，況且現在的老父，再說也只是繼父的身分而已，這個時代要兒孫一婦回家同住，禮貌上要問兒子家是否有回老家的意識，換言之，要舉行公民投票，問々老百姓的意見再行事，動不動就文攻武赫，要台灣人民就範，用強制的手段併合台灣，總會結下世々代々の死怨，到那地步，中國也不會有安寧。

中國的黨、政領導人應該教育自己，且教育民衆，開導民智。逝去的時光無法倒轉，撥出的桶水無法收回，割讓出去的台灣也是無法再縫合，這是自然的現象。違反自然的定律只是徒勞無功。台灣是已分家出去的弟兄，要尊重台灣人民的意向，視台灣為兄弟之邦，才能代々相好，大家和睦共處，共享和平繁榮，才是二十一世紀中最偉大的事業。過分強調愛國主義、愛國教育只會誤人誤己，什麼完成祖國統一大業都是無濟於事、庸人自擾而已。

希望在最近的幾年內，台灣總統出國訪問，能大々方々地被尊稱「台灣總統·蒞臨敝國訪問」，不用再被加稱「來自「台灣」的」總統。簡單明瞭不用多唆，民衆也一看即知。我們黑狗兄弟出國時，也不用再多加「來自「台灣」的」黑狗兄。乾脆俐落，多爽快！

新包可花專欄第一回
返櫻都 包可花重現江湖
探梅園 試舌鋒再戰二隨

田川博章

話說包可花當年憑著一張 嘴和一張貧嘴，吃遍了台灣和東京不算，居然不自量力，立志要吃遍天下。結果一物剋一物，無地冒出來一個二隨，硬是要和包可花拌嘴爭食林盟主。結果包可花不運在品鴨大會落敗，名符其實的讓煮熟的鴨子飛了，所以才落寞的出去雲遊四海，琢磨功夫，以便後日再找二隨一雪前恥。如今事隔七年，包可花自信一身拳 已經修煉到外功是刀槍不入，以一擊百，內功則三花聚頂，五氣朝陽的崇高境界，所以決定重現江湖，再闢道場，以靜制動、隨時等待二隨前來 館。

包可花雖然長得肥頭大耳，俗不可耐，而且感性有餘，理性不足。不過卻又目光精湛，味覺敏銳，倒也有些可取之處。包可花在台灣，從 A 級的「馥園「新同樂」到 B 級的「鼎泰豐「京兆尹」等，無不涉足於「食」一道，算是 了不少學費。包可花吃遍台灣後，才又 舌東瀛，並曾邀集同好，取法語「gour-met」之音，創「姑茹美」一會，意欲通吃吃過海。包可花於食一道師法蘇東坡，自認學問雖比蘇東坡稍遜一籌，可是論起好吃一道，則尚可與蘇東坡平分秋色。蘇東坡只憑了一個煮爛肉的新點子，就成了「東坡肉」的開國元勳，又憑著一句「無竹令人俗，無肉令人瘦」的即興詩，就成了「筍炒肉」的黨國元老，那裡比得上包可花一身真功夫。包可花沒能留名千古，只不過是時候未到而已。

食之一道，五花八門。單是一塊肉，先不說肉質如何，只看隨著風土氣候、年代變遷、人口貧富多寡等不同，料理的方法就會各出奇招。所以要品評料理，不能只看鹽油醬醋，還要熟知當地的地理歷史文化，才能做出正確的評價。以東坡肉來說，也不過是將五花肉燉得稀爛，雖說火候功夫因人而異，但是基本上作法單純，和一些做工複雜的食譜比較起來，其實尚不足以傳世。且以蘇東坡所撰《豬肉頌》看如何煮東坡肉：

“洗淨鑊，少著水，柴頭罨煙餡不起。待他自熟莫催他，火候足時他自美。黃州好豬肉，價賤如泥土。貴者不肯食，貧者不解煮。早晨起來打兩碗，飽得自家君莫管。”

此詩內容再加上時代背景，便可領略東坡肉傳世之理一二。蓋宋代東坡肉之前，豬肉價賤，貴者不食，一般人只食健肉以取蛋白質養分。東坡肉不過是將豬肉連皮帶油以慢火少水將肉燉得湯質稠濃，味道醇厚強烈，而改變了吃健肉的習慣，並造成吃豬肉的全民運動而已。

從東坡肉一例已可窺知食肉之法可隨時代改變，其他如蒙古 肉者則是為因應行軍打仗而來。試想成吉思汗率領大軍橫跨歐亞，最迅速且合乎蒙古人啖羊肉之習的營養補給法正是蒙古 肉。此外，寒冷地帶的國家好將肉類製成香腸，此乃因香腸為保存肉類過冬之良策。反之，古時熱帶地方無法將肉類保存於陰冷之處時，為防腐敗，就必須去油加鹽，並快馬運輸，才能由 地傳送至他處。此所以古人只食まぐろ之赤身而不食とろ之理。再舉一例，中國人口 多，若要同時供餐， 無時間慢工出細活，唯有用大火炒快肉，才能應付廣大人民需要，中華料理的「炒」功便是由此而來。

包可花向來注重食材，認為烹調以發揮食材原味特性為肝要。然而正如上述所言，選擇食材必須考慮天時地利人和，不能像一般老饕只知逞口舌之利。包可花深知此理，因此光憑這一身所學，包可花其實早就贏得了食林專家的敬意。如果不是半路殺出來一個二隨，包可花說不定早就被公認為天下第一嘴了。因此，包可花今番重現江湖，可以說是志在必得，要殺得二隨對他心服口服。

包可花回到 違已久的櫻都以後，首先要做的不是去拜會各式料理的龍頭老大，卻是一得

空就直奔台灣料理的「梅園」位於東京錦糸町公園之側，既非地處康莊大道，也不富麗堂皇，不過劉老 做人一向人不親土親，而且所烹調的料理和日本大多數的台灣料理也大不相同。一般號稱台灣料理的飯店，如果不是只有台灣小吃，否則就是用中國菜掛羊頭賣狗肉「梅園」劉老 由於出身嘉義，所開出來的菜單多具台灣特色。從紅燒甲魚，清蒸龍蝦到三杯 、牛肉麵等籩，頗有台灣 土「 」的味道。

包可花原意是到「梅園」會老友敘敘家常，不料一步走進「梅園」，赫然發現二隨竟也在座。包可花和二隨原本是若分若合，似敵似友，忽而結伴出訪新味，忽而為食道爭 不休的老搭檔。當初若非包可花不意敗在二隨之手，一怒出去雲遊修煉，否則以二人之緊密關係，應當不會和二隨斷了聯絡。包可花原本期待於自己道場再和二隨相逢並一較勝負，不料出其不意在這裏遇到二隨，反倒是失了先機。

包可花雖因事出突然稍微亂了方寸，不過相機行事也只有走上前去，假意和二隨噓寒問暖。兩人正在暗中較量，互探虛實之際，正好劉老 捧著一鍋燉土 朝二人走了過來。土 方爛，鍋內仍 湯滾滾，可見是剛剛下火。劉老 不由分 ，把一整瓶米酒一股腦兒的就灌進了 湯。

盪正處高 ，經過米酒一引，當下就火冒三丈，食客無人不看得痛快。劉老 深知二人好鬥，眼看良機不可失，乃和在場 食客慫 二人過招。

二人禁不住 人鼓噪，便各取白紙一張，以背相對準備出招。劉老 出題規定兩人各以一字形容這道「米酒燉土 」的真髓，並將此字存墨於白紙之上。寫完之後，一翻兩 眼。圖窮匕現，包可花寫了個「原」字，而二隨則是寫了個「隨」字。

包可花言道：

『呂氏春秋本味篇有言，水生之物腥，肉食之物 ，草食之物 。有 味而能烹調為極品，乃因烹人深知食材之原性，固能對症下藥，以米酒去其 ，以猛火散其氣，方能甜而不 ，熟而不爛。米酒引火，確因熟知食材原味而來，余因此得一個「原」字。』

二隨言道：『烹 之道不外色、香、味、形、器。米酒去 ，想當然耳，然米酒何以不在廚房下火之前入鍋，而擇於下火之後，方到食客面前入鍋？故以米酒引火，乃蘊以火為色、以火傳香、以火代器之意。米酒引火，已乖離去 之原意，應為烹人隨興之作。余以此理，得「隨」之一字。』

劉老 聞言大笑，道：

『二位果然不愧是食林高手，出口成章，不同凡響。二位之言皆深得我心，可說是平分秋色。而「原」「隨」這二字也正可以顯出二位乃是傳統料理與創新料理的代言人。只不過我這一道「米酒燉土 」之所以蓄意在食客面前引火，其實也沒有什麼深刻的大道理，乃是當初為要接受電視公司的採訪，而才製造出來這個新招。二位倒是言重了。』

包可花和二隨聞言相對大笑，總算將對仗的氣氛一掃而光。兩人重新握手寒暄，互道別情。食道之技，到底是誰高上一籌？兩人從此是敵是友？且待下回分解。

「空中驚魂記」

——3月28日搭乘長榮航空遭遇晴空亂流的恐怖經驗報告

布施政庭

「天有不測風雲、人有旦夕禍福」這句口頭禪，太平安樂的日子裏好像無関痛癢，但是一旦自己親身經歷了不測事件，那種驚慌恐怖的體驗，對這句話的哲理却有深入肌膚的感受。

3月26日，因台灣親戚家有事，必需回台灣，事前與內人討論航空公司的訂位事宜，內人搭乘長榮航空數次，對長榮的機內設備、服務等々頗感滿意，我則是第一次搭乘，不置可否地答應，試搭長榮航空看々，怎知這一「試乘」，却遇上了坐飛機20多年來的第一次「天有不測風雲」的事件。

3月28日、台北時間下午3時，由桃園起飛返回東京，台灣北部地區只是多雲的天氣，但是關東却是陰天小雨，這架長榮航空班機エアバスA330-200型機，搭載我們乘客共251名，由桃園順利起飛後一路平穩，新型的機艙，光潔亮麗，內裝及顏色配置很柔和，廁所內空間寬廣，令人耳目一新，每個座位前都安裝視聽螢幕、映画、ゲーム及音樂各選所好，是我經常乘坐的日本了じア所沒有的，航空小姐服務也還親切，在我所認識的親友，長途飛行都選擇長榮，也不無道理。

事件發生在著陸前約30分鐘左右，日本時間下午六時剛過，機長向乘客廣播即將著陸東京成田機場，於是有些乘客起身上廁所、整理行李，航空小姐忙著收拾餐具，我與內人則繫著安全帶靜坐休息，在機長廣播完約5分鐘左右，突然整個機艙瘋狂似地「飛跳」起來，乘客紛々被拋上3~4公尺，很多人撞上了天花板，突如其來的狂顛，震得人仰馬翻，不知發生了什麼事，大多乘客驚慌失措，女性乘客尖叫哀號，恐慌至極，內人也緊抓著我的手臂大哭失聲，緊接著第二次也是上下震盪3~4公尺，乘客又被狠々地拋起來，整個機艙大房子上下連續浮沈兩次，全體乘客驚恐到了極點，下一秒鐘又會發生如何激烈的震盪，沒人曉得，乘客哭的哭、吐的吐，大家都緊々抱住左右親友，生死真的由不得自己，經過這樣的激盪，機體是否分解？越想越恐怖，當時我不知怎的，還蠻鎮定的，仔細聽兩旁飛機引擎聲音並沒有雜音，機艙內的氣壓並沒有變化，內心稍安，機長在第一次上下震盪後，立即叫乘客、包括空服人員，一律坐上座位，繫好安全帶，機長廣播聲音急促，雖鎮定却帶著驚慌聲調，第二次震盪後，這次換上日本籍的空中小姐廣播，飛機遇上亂流，請大家繫好安全帶，語音已恐怖到了極點，有點言無倫次，聲音沙啞好像嚇得哭出了聲，連プロ的空中小姐都已經嚇得那樣子了，我則轉頭安慰內人，遇亂流而已，飛機本身還好沒有發生故障，叫內人放心，那知才剛說畢，整個飛機卻像乘著沒有軌道的雲霄飛車般地急速下降，這次真的全機艙大家都尖叫了起來，整個身子一直往下掉，心臟一直往下沈，停不下了停不下了！下一步飛機要發生什麼狀況的恐怖感，實在達到了極限，飛機急速下降了700公尺（後來才知道）後，突然回復正常位置，這一滑降大約有10數秒鐘，比剛才那兩次震盪更令人驚慌，在安全著陸前，有兩、三次小々の左右搖幌，却也嚇得大家神經緊張，頭皮拉緊，因為不曉得下一秒鐘是否會發生什麼緊急狀況。

飛機遭遇亂流時的高度約一万700メートル，當時機艙內部一片混亂，杯盤狼藉，有多處緊急用O₂マスク降下，黃色吊帶O₂マスク懸在行李箱下方搖幌，我與內人是坐在飛機中段，並沒有見到受傷的人，當初以為只是虛驚一場，也沒聽到廣播說要徵求機上醫師協助，轉頭向後段機艙察看，並沒有想像中的大混亂情況，大家都安靜而神情緊張地坐在座位上，頭上的行李箱每個都安全地緊閉著，艙內空調、燈光照亮如常，後來看到電視報導，才知道有50多人受到輕傷，大多是撞到天花板時擦傷，有一人頸部受傷，但還好沒有生命危險，飛機本身經過這麼大的衝撞，竟平安無事、沒有發生故障，實在是不幸中的大幸。

飛機安全著陸，看到滑走道的那瞬間，真是感激無量，生命真的像是檢回來的，東方人的乘客著陸後都安々靜々の，我想若換成美國人或拉丁美洲人肯定会歡聲雷動、拍手而互相擁抱，當時我確實有那樣的衝動。飛機在停機坪下穩住後，機體四周被多輛閃々發紅光的救護車、消防車、警車団々圍住，機門打開後，上來了數位醫護人員，在空姐的誘導下，往機艙後面走動救護，在確

定没有重大傷害意外後,廣播說没有受傷的旅客可以分批下機,我看到有多位旅客額頭貼著救護膠帶。

在走出機艙進入成田機場的走道上,有許多台電視採訪記者,捉對地對乘客進行採訪,面有餘悸的乘客也很配合地接受採訪。在走進海關、接受檢查詢問時,海關人員知道我們是搭乘那班遇亂流班機,(大概恐怖的表情還寫在我與內人的臉上),客氣地只看々護照,口中還隱約地說了声「ご苦労様」。

(事後感言)

在回程的電車上,回想起剛才一、二個鐘頭前發生的不測事件,瞬間決定生死,真的如同佛教所說的「人生無常」,生而為人,有肉体上的牽掛,承受著「生老病苦」,雖然每個人都希望快々樂々、平安富貴地生活,但是「無常」的災難却都是隨時可能發生的。

既然了解「無常」隨時可能發生,人生苦短、生涯有限,我們活在世上實在應該快做應該做的事,我們有幸生在安和樂利的第二故鄉日本,但是環顧四周,不況失業、經濟苦、自殺(日本已連續6年,每年自殺者数超過三万人),還有那遠方国度裏,承受天災、戰禍、孤苦的成人與幼兒,每天艱苦地過日子,我們透過同情,自然会發出憫人之心,盡一己之力、又團結大家的力量去努力行善,表面上是利益了他人,但實際上是豐富了自己的人

GUIDELINE ----- EBM ----- META-ANALYSIS
(ガイドライン) (EVIDENCE-BASED MEDICINE) (メタアナリシス)

元山逸功

インターネットの普及により、世界中から情報を集める事が極めてスピーディ且つ簡単に出来るようになった。即ちデジタル・ライブラリー(PubMed , Ovid-MEDLINE etc.)ともいうべきもの

に入り込むことが出来るようになった。そこへは患者も入ることが出来る。従って、予め十分な知識を持って受診する患者も増えてくるであろう。一般向けから専門向けまで様々なレベルの医学知識に誰でもアクセス出来る時代になった。自らの臨床経験だけで医療を行う事には限界が見えてくるかもしれない。世界中で論文を系統的に集め、批判的に吟味し、エビデンスをまとめ、即ち EBM と Systematic Review に基づく、必要に応じて コンセンサス を形成して診療ガイドライン (guideline) が作成され、発表されている。現在厚労省、各学会などを中心として診療ガイドラインが作られている。これらに準拠して診療を行うことが要求されるであろう。EBM は日本語では『科学的根拠に基づく医療』と訳されている。即ち、臨床疫学、医学生物統計学などを基礎にデザインされ実施された臨床研究により科学的に証明された根拠に基づいて、個々の患者に対する診断、治療などの医療を実践しようとするものである。従来医師個人の経験や (opinion-based medicine) 専門家オピニオンの意見に基づいて行われてきた医療が医学の進歩に伴い、エビデンスがあらゆる分野で提供されるようになって形成されてきた医学の実践体系といえる。EBM の実践は (1) 臨床上の疑問の特定 (Formulating a key question) (2) 問題を解決するための情報の系統的な収集 (Information collection) (3) 情報の批判的吟味 (Critical Appraisal) (4) 患者への適用 (Clinical application)。

その内 (3) 情報の批判的吟味は一番重要であるが一般的に知られていない。批判的吟味を定量的にまとめる場合にはメタアナリシス (meta-analysis) の手法を用いる。メタアナリシスはすでに発表されている同じテーマに関する臨床研究を定量的、統計的にまとめて、結論を引き出す研究手法である。3次データ分析 tertiary data analysis と呼ばれることもあるがメタアナリシスと呼ばれることが一般的である。Systematic review とほぼ同じ意味で使用されていることもある。一般的な総説 (narrative review) はその道のある大家が自分の知識や経験を基に、いくつかの文献を紹介しながら特定の結論に纏め上げるものと言える。しかし、このような総説は他の研究者が同じ文献を参考としても同じ結論に達するとは限らず、比較的独断と偏見に落ち入り勝ちである。又全ての人を納得させる客観性のあるものではない。これに対して、系統的総説 (systematic review) とは原則的に別の研究者が同じデータで同じ様にまとめても殆ど同様な結論が得られる客観性の高いものを言う。この系統的総説には、明確な目標と、文献を選択する際の明確な方針、それらの質と量を評価するシステム、それらの結果を統合する (combine, synthesize) 客観的な方法が要求されます。このような系統的総説では、引用する研究母集団や介入方法、転帰の測定法などが違うために、単純に集計をしたし比較することではなく効果の大きさ (effect size) の重さ付き平均 (weighted mean: Inverse-variance weighting method にて結合) を導入し計算することが必要である。これは、いわゆる、メタアナリシス (meta-analysis) 手法と云うことである。

この方法は研究結果「多くは相対危険度 (relative risk)、リスク差 (risk difference)、オッズ比 (odds ratio) が求められますが」を定量的統合する疫学的研究方法です。メタアナリシスには利用するデータの形態により2種類のものがある。(1) MAL (meta-analysis of the literature) 即ち発表された論文データのみをベース (2) MAP (meta-analysis of individual patient data) 即ち全患者個人データをベースとしたものである。また統合する統計モデルも2種類ある。

- (1) 母数モデル (fixed-effects model): 研究間のバラツキは専ら偶然誤差であると仮定することであり、Mantel-haenszel (1959) の方法, Peto (1985) の方法などがある。
- (2) 変量モデル (random-effects model): 研究間のバラツキには本質的にはある程度の差がある、つまり研究間には無視出来ない違い (heterogeneity) があり、DerSimonian-Laird

(1986)の方法がある。

2種類のモデルそれぞれに特徴がある。いずれも統合結果を検定し、また引用した個々の研究結果の均一性(homogeneity)の検定も必要となる。メタアナリシスは、個別にははっきりと解答が得られなかった研究を統合することで臨床上重要な疑問に答えられる様な手技として有力である。

最後は systematic review の一例を示す。図 1.1 は心筋梗塞後の2次予防として beta-blocker 投与の効果です。試験毎に薬剤 beta-blocker の死亡オッズ比の点推定値と95%信頼区間(95%CI)が示されている(薬剤の効果があれば死亡オッズ比が小さくなる)、信頼区間が1.0を含んでいればその試験での治療効果は有意でなかったことを示している。また、黒塗りの四角形の面積はメタアナリシスでの重みを意味し、それは大体標本サイズに比例(信頼区間の幅に反比例)する。つまり、メタアナリシスにおいては規模の小さい研究結果の重みは小さいことを示している。しかし、統合されたオッズ比は(◇ diamond で示す)Yusuf et al (1985) の15の試験の結果とほぼ同じで 0.78 (95%CI:0.71---0.87)であった。この図から17全ての試験での信頼区間がこの統合オッズ比 0.78(図の点線)を含んでいることが分かるので、17の試験の結果はかなり似てることを示唆している。事実、統合可能性を検討するために17の試験で推定されたそれぞれのオッズ比が総べて等しいか否かを検定する均質性の検定(test for homogeneity)を計算して見るとその P 値=0.164、即ち $P > 0.05$ なので均質性を否定出来ない。オッズ比の図で注意したいのは、図 1.1 に示している様に、対数目盛りでプロットすることである。

現在、絶えず進歩し続ける医学知識と技術を前にして、効率的かつ正確的に新しい医学エビデンスを獲得することはプロフェッショナルな医師にとって大変重要なことであるから以上に述べた様なことを理解し、応用することが望ましい。

参考文献

1. Meta-analysis Principles and procedures

<http://bmj.bmjournals.com/archive/7121/7121ed.htm>

2. meta-analysis stuff power point による説明

<http://mason.gmu.edu/~dwilsonb/ma.html>

心筋梗塞後の2次予防へのβブロッカー

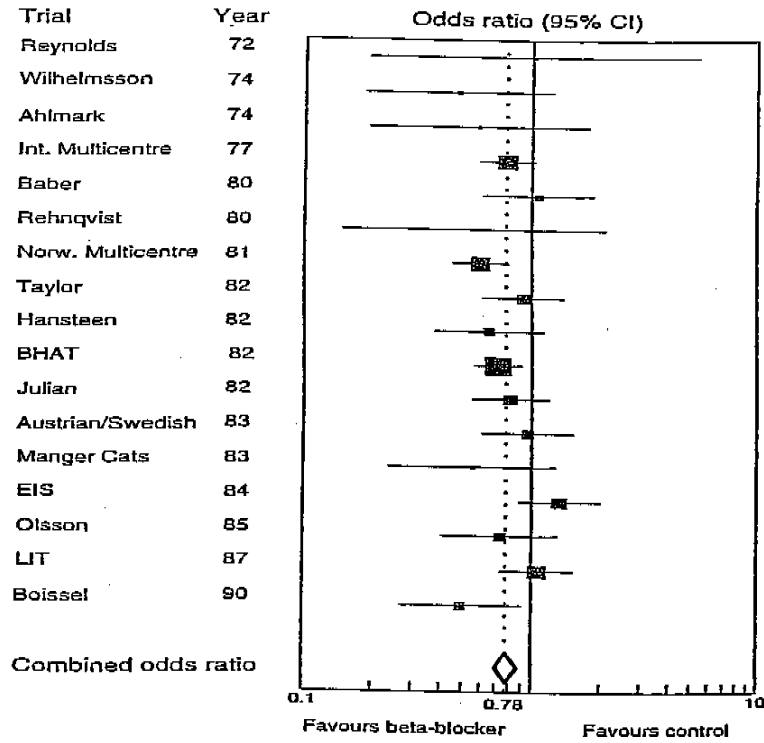


図 1.1 Yusuf et al.(1985) による心筋梗塞後 2 次予防へのβブロッカーの長期投与の治療効果(死亡率リスク減少)に関する 15 の RCT に二つの RCT を加えたメタ・アナリシスの図示表現 (Egger et al., 1997a)

合併症のない皮膚炎はステロイド外用剤で治る

蕭 惺惺

皮膚科の教科書と 1999 年日本皮膚科学会が公表したアトピー性皮膚炎(AD)治療ガイドラインにはアトピー性皮膚炎の治療はステロイド外用剤(ス剤)が主となっています。しかし、皮膚科開業医の私は日々の診療では、軽い接触性皮膚炎であるにも関わらず、マスコミの影響でステロイド

外用剤を拒否する患者を説得しなくてはならないことがよくあります。一方で、脱ステロイド療法のため患者の親が訴訟を起こした記事も去年にありました。

ステロイド内服はそれまで解決できなかつたリウマチによる激痛を治療できたことから Super Wonder Drug と呼ばれました。副腎で分泌され、炎症と免疫反応を抑制するこのホルモンの有効性と安全性は、分子メカニズムまで研究されました。その内服は自己免疫疾患、膠原病の患者の QOL を向上し、命までも救ったのです。皮膚科的には、内服の副作用を有効に避けられる局所外用剤の開発が1950年頃から盛んとなりました。現在では Strongest から Weak まで、皮膚炎の部位と病変の強さによって広く選択肢があります。科学的に立証された治療薬があつて、目に見える皮膚炎を治療するのにアトピーは薬剤で治療するとノンステロイド、ノンアトピー(ステロイド治療こそが重症アトピーの根源と主張)まで本を堂々と出版するところもあり、この考えられない矛盾について、15年間、皮膚科開業医をしてきた私なりに考えてみました。

1. 外用方法を正しく指導する。

内服薬は医者が処方した通りに治療を続ければ、期待される通りに治ります。皮膚科医が工夫しないといけないのは、決まった期間内にステロイド外用剤が期待された効果を発現するよう、厳しい外用方法を指導しないといけない点です。

a) 患部に塗る

一番強い所から塗り始めたが、一肢までうすくのぼしてしまう患者が多くいます。

b) 濃度を一定にする

皮膚炎の部位は表皮内水分が蒸発しやすいため、外用する時は乾燥した病巣が軟らかくなるまであつく外用し、ステロイド剤のランクが軽い方に変えた後でも、治るまでは同じ厚さで外用する必要があります。

c) 治療の判定を患者自身がするように指導する

皮膚炎が治っているかを、外用する度に患者自身が確かめるように教えます「ステロイド剤を正しく外用すれば効果は2、3日で現れ、7日たっても正常な皮膚に見えない時には一時中止すること」をはっきり説明しないと、患者は薬というのはなくなるまで外用するのだと思い、悪化しているのにもかかわらず、2ヶ月間も毎日少しずつ外用する患者がいます。

d) 100%治療するまで続ける

皮膚炎の患者は大抵2、3か月心配しつつ、かなり悪化してから受診します。ステロイド剤を3、4日外用すれば痒くなるので、軽く見えたなら外用を中止してしまいます。残り30%の炎症が再び環境抗原の刺激により一週間ぐらいで悪化してしまい、それをステロイド剤外用によるリバウンドであるとか、ステロイド剤が効かないからであると、ステロイド剤を悪者にし、脱ステロイドにまで発展してしまいました『皮膚は人間の壁(一番尊敬している養老先生と同じ言葉を使えて、うれしい)修理をいつも早く、確実に、完全にすれば、いつまでも住めます』と同様に、皮膚炎の繰り返しで進展したアトピー性皮膚炎の治療も100%治療を目標にします。その為には、皮膚が7日位正常に見えているのを確認した後、外用回数を1日に1回に減らし、或いはランクを下げ、さらに3日外用しても再発しないことを確認し、真皮に残っている炎症反応も完全に治ってからステロイド外用剤を中止することが大切なのです。

2. 皮膚は無限に強いのではない。

物理的摩擦にて皮膚に簡単にヒビができることを証明した文献はいくらでもあります。漆などの高い塗り物、鍋は気をつけて柔らかいもので洗うのに、多くの人がお風呂に入るときには自分の皮膚を、皮膚より固いナイロンタオル、スポンジー、タワシでこすります。このような入浴方法のせいで、せっかく治癒した皮膚を傷つけ、環境抗原の侵入経路となるヒビを毎日自分で作ってしまっているのです。

3. 環境抗原を認識する。

House Dust (HD)がアトピー性皮膚炎の主な原因であることは知られているのに、毛足の長い毛布を乳児から年寄りまで使っています。バリア機能が発達していない乳児や、それが退化した年寄りに対して、毛足のなかに潜んでいるHDが知らないうちに皮膚炎を起こしてしまうのです。皮膚炎の原因は空気中、とくに床、畳、じゅうたん、そして一日6時間も体に掛けている寝具にあることをしっかりと説明すると、要らない心配が除けられます。悪化因子であるHDの接触をもっと積極的に避け、再発を防ぐことができます。

この15年間で一番の収穫は『二次感染がなければ、乳児湿疹も慢性湿疹もステロイド外用剤にて100%治癒する』ということをやっと胸を張って言えるようになったことです。全身に掻き傷を伴う皮膚炎の患者の治療を始める時には「今度は駄目かなあ」とやはり不安になります。しかし、ステロイド剤に裏切られたことは幸いに無いと言えます。一旦正常な皮膚にリセットした後、スキンケアをしっかり行い、悪化因子を可能な限り避け、もし再発した時には軽症のうちに治療を始めれば、ランクの軽いステロイド剤を使用でき、その量も少なくて済みます。再発の度に皮膚炎の範囲が少なくなっていけば、正常な皮膚が増えることになり、アトピー性皮膚炎も治ります。痒い時だけ外用してごまかしたり、悪化するまで放置したりすると、完治していない患部のヒビから環境抗原が侵入し続け、Irreversible Changesが進み、IgEも上昇し重症化につながります。

去年7月、このシンプルな結論とともに、当院で治療を受けた乳児、幼児、高校生の長期経過を第33回日本皮膚アレルギー学会で報告しました。この私なりの結論は、毎日の診察で患者と共に患部の治癒状態を観察し、少しずつ積み重ねてきたものであります。ステロイド剤のバッシング記事、ステロイド剤を拒否し、禁食のみで治癒を待つ乳児が栄養不良のため緊急入院した症例報告を見る度に、ステロイド剤の治療経験を発表し、治療効果を確認することが皮膚科医としての責任だと痛感します。先生方も賛同していただけるならば、ステロイド外用剤を処方するときには米国仙丹の効果を確かめてみてください。(皮膚科専門医)

乳幼児冬季胃腸炎

河田啓暉

秋の終わりから真冬にかけて、生後4ヵ月頃から5歳ぐらいまでの乳幼児が主にかかる非常に頻度の高い病気である。その原因はほとんどウイルスによるもので、ロタウイルス(rotavirus)、アデノウイルス(adenovirus)のほかにノロウイルス(norovirus)、サポウイルス(sapovirus)、アストロウイルス(astrovirus)など小型球形ウイルス(small round virus)が主な起因ウイルスである。毎年、大部分の症例からノロウイルスやロタウイルス(主にA群)が検出されている。秋～冬にかけてノロウイルスが多く検出され、翌年の1～3月にかけてロタウイルスの検出がピークになる。ノロウイルスはノーウォーク様ウイルス(Norwalk-like virus)とも呼ばれているが、ウイルス学的分類ではカリシウイルス(calicivirus)科に属する。

世界各地において、ノロウイルスは乳幼児から成人までの幅広い年齢層に胃腸炎を引き起こし、

また非細菌性、集団食中毒の原因ウイルスとして注目されている。ロタウイルスでは主に三歳未満の乳幼児に比較的重症な胃腸炎を引き起こす。感染様式は経口的にウイルスが侵入する糞口感染である。乳幼児の保育施設における胃腸炎発生の場合には、ノロウイルスとロタウイルスによることが多い。潜伏期間は約1～3日であり、発症時の主要症状は嘔吐、下痢、腹痛、発熱である。ノロウイルスによるものは潜伏期間が短く(1日以内の場合が多い)、嘔吐が高率にみられる。ロタウイルスによるものでは、比較的重症な下痢症を起こす。病初期の胃腸症状と発熱はインフルエンザや他の感染症にもみられるので、それらの疾患との鑑別診断が必要である。

便の性状は軟便から水様便まで様々で、回数は1日数回から十数回に及ぶ。ロタウイルスによるものは、黄白色や、米のとぎ汁のような白色水様便が典型的で、下痢の回数も多い傾向にある。なお、消化と吸収の役目をしている小腸粘膜の細胞がロタウイルスによって広範囲におかされ、特に乳糖の消化ができにくいため、甘ずっぱいにおいのある水様便がよくみられる。

嘔吐と下痢のため、体の水分が失われ、短期間に脱水症に陥りやすいので、注意しなければならない。そこで治療は、早く鎮吐剤(ナウゼリン坐薬や内服)の投与にて嘔吐を止め、口から主に電解質を含有する乳児イオン飲料水、ソリタT3顆粒などの経口補液(oral rehydration solution)を十分に補給する。この際、患児が欲しがらなければ与えて良いが、嘔吐しやすいので、少量頻回投与の方法は重要である。また、下痢の様子をみながら、ミルク(通常の $\frac{2}{3}$ に薄める)や母乳を

加え、離乳開始後の乳児には野菜スープ、三分がゆ、五分がゆ、全がゆという順序で進めていく。整腸剤(ビオフェルミン、レベニンなど)と止痢剤(ロペミン、タンナルビンなど)の投与は有効である。ロペミンは麻痺性イレウスをきたす可能性があり、できれば低量投与の方が良いと考えられ、6か月未満児には投与禁忌とされている。

合併症として、いちばん大きな問題は脱水症である。これは嘔吐、下痢、発熱などで、体から水分やナトリウム、カリウムなどの電解質が出ていくのに、口からは水分、電解質と栄養が補給できないという時に起こる。脱水の程度が進むと、口唇が乾き、皮膚も乾燥して目が落ち込み、興奮して泣いてばかりいて、夜もよく眠らなかつたり、逆に起こしてもすぐ眠りこける状態になる(中等度脱水症)。さらにひどくなると、昏睡状態になり、けいれんを起こしたり、顔面が蒼白になってチアノーゼが出現したりする(重症脱水症)。中等度以上の脱水症になった場合、排尿の有無を確認しながら、経静脈輸液のことを考慮しなければならない。

ロタウイルス胃腸炎症例の多くは食事療法と薬物投与にて1週間で軽快する。ノロウイルスによる胃腸炎はより軽症で、3～4日で軽快することが多い。

一位異郷人的独白

岡山文章

× × ×

25年前離開台湾來到日本，父親的友人來機場接我，車子離開羽田空港、上了高速公路時，突然後方響起了急救車的呼聲，一瞬，三行車線上穿梭不停的車子，一致向道路兩側移動，數秒鐘之間，急救車疾駛而過，從凍結下來的車隊中間飛馳到視界最遠方的地平線。Pi—Po、Pi—Po

的聲音一消失，高速公路又恢復原來的雜亂移動。11月深秋中的東京給一位異鄉人的第一個衝擊——這個國家很有秩序——這個國家的急診病人生還的機會很大……。

× × ×

如果記憶沒有錯誤，那是1981年秋天的一個星期日，一大早離開值班的病院，抵達東京車站，買了自由席車票，好不容易擠上了新幹線，車子就是停著不動。原因是當天早上在關西發生脫線事故，全日本的新幹線系統完全停頓下來。在車內耐心地等了3個小時，總算出發，下午2點多才到達京都。出車站時，剪票的國鐵職員把我遞出去的乘車券取下來，却莫名其妙地把蓋了章的急行券又還給我。

匆匆忙忙地叫了一部計程車前往京大會館，完成參加高醫校友會的心願，引頸盼望的關西校友們，看了我手中拿的急行券，提醒我不要忘記去領回東京到京都的急行車費。

原來日本的國鐵有這麼樣的規定，國鐵把我從東京平安地送到京都，所以我必須付基本乘車費，不過，它耽擱了我2個小時以上的行程，必須退還全額急行車費。（一～二小時的遲延退還半額，一小時之內，限於天災、人事因故，在所難免，不退款。）

天涼好個秋的時期，花了6個小時才抵達京都，雖然身心疲倦無比，却不得不佩服這個國家的負責任及合理的精神。

各位一定經常在電視新聞中聽到「JR山手線的××站發生人身事故…」的報導，有些是意外事件，但是，大部分都是投軌自殺。為了處理現場JR常常得停止車輛運行或疏散旅客改搭私鐵，當然JR為此得承受重大的財務損失，這筆巨款應由誰來負責？最近才聽人說有許多自殺者的家族賠了三代都還算不清。這是一個相當嚴謹的社會。

× × ×

在關東地區過研究生活時，有幾年單身赴任的日子，醫局中剛好有一位同樣處境的日本前輩在一起，一星期中除了各自值班及回東京之外，兩個人至少有2天一起出外吃晚餐。一年52個星期，要如何安排menu？這位兄長的提案是這樣子的——首先，先想一想要吃那一國的料理，スパゲティ、ピザ—等意大利料理？燒肉、冷麵等韓國料理？便宜的家庭式法國料理？或是中華料理？如果氣氛對不上時，下一步開始考慮想吃那一樣的日本菜，像「民芸」的日本ソバ、うどん、榮養及カロリー100點的豚カツ料理、吃碗ラーメン、加上半炒飯、或是到居酒屋或炉端燒屋，辺喝酒、挾小菜、辺和店裡的ママさん及其他客人談笑等等。……

回台灣時，大街小巷走來走去，從台北搭自強號到高雄的沿路上，眼睛看得到的餐廳招牌，都是從小就耳濡目染的品目，港式飲茶、紅燒排翅、寧波小吃、肉圓、陽春麵、魯肉飯、當歸鴨……等，幾乎都是中華、台灣料理，我常常想這位醫局前輩，如果跟我來台灣住一年，他不改變他的思考方式一定活不下去。

日本的旅行廣告裡面總是強調他們會帶大家去吃各地的名物料理，像地中海沿岸的ムイヤベス、西班牙的パエリア、中東地域のシシケバフ等等。有一次參加日本旅行團去意大利旅遊，回國前一天的中餐是中華料理，大家非常驚訝為我們服務了8天的意大利司機竟然很技巧地使用筷子。有一位日本人忍不住去問他為甚麼？答案是他經常開車載台灣來的觀光團。他說：「我是不知不覺中學會用筷子的，因為台灣旅客每天從早上開始三餐都吃中華料理」一天練習三次、難怪他那麼熟練。

× × ×

非常謝謝這二年来大家的幫忙!電話中會員的各種意見、想法、突然的 FAX 批評、發了会刊後、來自遠方的回響,都給了我莫大的鼓勵。執行部的各位理監事同僚的默默地、獻身的協助,以及肆無忌憚的建議,都是日本台湾醫師連合的基盤。衷心地感謝之外,希望大家不忘初心,繼續關懷、愛護、培育正在茁壯中的日本台医連。

・以下讓我介紹二、三本書:

1) 歴史の教訓 上智大学名誉教授渡部昇一
~月刊誌 致知 2005年2月号 100P
(會員 莊子慧玲推薦)

2) 兩本中文書的介紹

A) 西餐禮儀實用新知識 B) 日本式、中式餐卓禮儀實用新知識
~麦田出版 (陳弘美著)

當主賓吃西餐時,要如何試飲 wine? 卓上一大堆的刀叉,要從那一支用起? 吃完了一道菜,刀叉要如何地處置? 為甚麼喝茶道時,茶碗必須轉來轉去? 箸子要朝那個方向擺才不失禮? 以嘴就料理或以食物就口? 其實餐卓的禮儀都是一個國家、社會的文化、生活智慧、歷史的結晶,陳弘美小姐透過這兩本图文并茂的書,把這些芳醇的文化、儀式介紹給我們。

~先生及先生娘們的教養書籍,值得一讀,也值得贈送給友人的兩本良書。

訂購:FAX 03-3483-1401 ⇒陳弘美小姐 兩冊 ¥2500
Eメール 66hiromi@mx2.ttcn.ne.jp

編後語

A、B 交錯のインフルエンザ、また予測通りのスギ花粉症に振り回された実地医家の慌ただしいシーズンがようやくほっとする中、ご苦労さまでした。日本台湾医師連合もその中で着実に総会を終え、会員たちの関心や期待を背負いながら第三世代の執行部が誕生しました。

いつも皆様の熱いご声援や溢れんばかりの愛情に注がれたさと医も便りも(ラッキー)7回目に到達し、とてもおめでたい中、多くの人から異なるジャンルの出筆を頂き、豊富な内容になった事に本当に心より嬉しく感謝の気持ちは尽きません。

今回執行部の交代を機に、従来の編集陣が充電期に入り、新しい陣容が“新しいことをなす”を引続きさと医も便りの編集を担います。どうぞ、続けて皆様のご支援を宜しくお願い申し上げます。(頌彦)

005 年日本台湾医師連合理監事名簿

顧問 重光茂榮 清水俊輝 添田世沢 玉井輝章 徳山昌平 元山逸功 森山勝宣

会長 丘 哲治
副会長 頌彦真賢
副会長 王 紹英
常務理事 東 昌明 蕭 惻惻 中山博雄 毛利 忠
理事 岡山文章 河田啓暉 清水 篤 高村 豪 田川博章 中里憲文
長峰俊次 林 明憲 林 昭棟 林 正浩 布施政庭 劉 文玲
監事 大山青峰 河元康夫 蘇原寛敏

台湾主権記念会の開催について

1951年9月8日、日本がサンフランシスコ平和条約に署名し、台湾の主権を放棄した。その日を境に、我々無数の祖先が千年万年の間、血を流し、汗を流し、築き上げた台湾山河の主権が、再び台湾人自らの手に帰ってきた。

我々は、台湾主権復帰の9月8日を歓喜と希望の日にしなから台湾主権について多くのひとと一緒に考えていきたい。

【内容】

第一部 講演会(90分) 台湾総統府資政:彭明敏教授

演題:サンフランシスコ平和条約と台湾 (日本語で)

彭明敏教授略歴:

1923年、台湾大甲で生まれる。旧制三高を経て東京帝国大学法学部に入学。太平洋戦争で、長崎で被爆し、左腕を失う。台湾大学法学部卒。法学博士(パリ大学)。1957年より台湾大学法学部学教授(国際法)。同学部長を歴任。1964年、蒋介石政権時代白色テロの最盛期に「台湾自救宣言」を起草作成したため、軍事裁判にかけられ、投獄される。1970年台湾を脱出し、スウェーデンに逃れ、米国に亡命する。1972年以降、ミシガン大学などで教鞭をとる。23年間の亡命後、1992年、台湾に帰国。

1996年、台湾史上初の総統直接選挙に野党民進党候補として出馬。現在、台湾総統府資政(最高顧問)。著書に「自由台湾への道」(社会思想社刊)などがある。

第二部 音楽会(90分) 李文智 tenor & countertenor/台湾クリスチャン聖歌隊

懐郷の調べ、世界名曲、等

李文智氏略歴:

【サンフランシスコポスト(音楽評論)ー三オクターブの音域を持つ素晴らしい声楽家】

【John Shirley-Quirk (世界的なアルト)ー人びとを魅了する不思議な歌声】

とアメリカで高く評価され、台湾がもっとも期待できる矚目の新星。

1977年、台湾高雄で生まれる。現在、ジョンホプキンス大学 Peabody 音楽院にて世界著名な声楽家 William Sharp に師事。2000年からピッツバーグ交響楽団、バルチモア交響楽団、など数々の欧米一流交響楽団と共演、好評を得る。ルネサンス、バロック、クラシック、オペラ、ミュージカルなど、広いレパートリーを持つ珍しい3オクターブのテノール・カウンタテノール。2003年に「喜愛的聖樂独唱曲集(Famous Sacred Solo for Tenor and Countertenor)」「夢之旅ー従文芸復興到 現

代流行楽(I Have Dreamed : from Renaissance to Broadway)」アルバムをリリース。

【日時】 2005年9月4日(日) 3.30-7.00 pm 3時開場

【ところ】 銀座 ヤクルトホール(574席)

東京都港区東新橋1-1-19 tel.03-35747255

交通: 駅より徒歩・地下鉄 都営大江戸線汐留5分 都営浅草線 1分

新橋駅1分 銀座線新橋駅 3分

JR 新橋駅5分

* 自由席 入場無料

【主催団体】日本台湾医師連合、日本台医人協会、怡友会、在日台湾同郷会、日本李登輝友の会

【共催団体】在日台湾婦女会、日本台湾通用語協会、中華民国留日東京同学会(TSA)、日本東京教会(加入順)

【後援】 台北駐日経済文化代表処

【企画運営】台湾主権記念会実行委員会

お問い合わせ: 王 紹英 03-5758-7863, denenkai@hotmail.com

2005年定時総会議事録

日時 平成3月27日(日)午後2時30分

場所 ホテルオークラ 平安の間(本館1F)

総会議長 頌彦真賢 司会 高村 豪

記録 東 昌明 議事録署名人 蕭惻惻 田川博章

1. 会長挨拶

2. 会務報告

1. 会員数:平成17年3月27日現在 151名

2. 会員桃山正康先生のご逝去を悼む(黙祷)

3. 各部報告:

(1) JTMUリーフレットについて

第一版 平成15年9月発行

内容として台湾当局のWHO on Line Petition 協力の呼びかけが主でした。

第二版 平成16年10月発行

台湾新国家の創立にあたって、理念及び希望をリーフレットの行間に刷り込みました。

(2) ホームページについて

平成14年2月11日開設 <http://www.jtmu.org/>

(3) 会誌「さと医も便り」について

平成15年1月12日発行

1年3冊のペースで頑張っています、会員方のご作品、ご感想、ご意見をお待ちしております。

(4) 選挙委員会について

日本台湾医師連合役員(理事、監事)選挙結果について下記の通り報告いたします。

開票期日:平成17年2月20日

有権者数:151人

開票結果: 投票数 74票(投票率49.01%)

会長に委任票数 77票

有効票 150票(同意)

白票 0票

無効票 1票

4. オ.会計報告及び会計監査報告について

添付した資料を御参考までに

添付(資1).平成16年度一般会計収支現況

添付(資2).監査報告書

3. 議事

第一号議案 平成17年度日本台湾医師連合役員(理事、監事)候補者の承認について、
本会定款第13条、14条及び選挙規程第7条、8条、9条に基づいて下
記の通りに承認されました。

会長 丘哲治 副会長 王紹英、頌彦真賢

常務理事 東昌明、蕭惻惻、中山博雄、毛利忠

理事 岡山文章、河田啓暉、清水篤、高村豪、田川博章、中里憲文、
長峰俊次、林明憲、林昭棟、林正浩、布施政庭、劉文玲

監事 大山青峰、河元康夫、蘇原寛敏

第二号議案 平成16年度事業報告の承認について

本会定款第21条第2項に基づいて第二号議案が承認されました。

第三号議案 平成16年度一般会計歳入、歳出決算の承認について

本会定款第21条第1項に基づいて第三号議案が承認されました。

4. 協議

総会期日改定について

理事会に協議する

5. 質疑

なし

6. 閉会の辞

お知らせ

その1 チャンネル桜について

会員の皆様、日本のTV放送の中、専門的に台湾の文化、政治等を紹介する番組は非常に珍しいと思いませんか。そんな環境の中“日本文化チャンネル桜”は、台湾の文化や政治や企業活動を取り挙げて放送している番組がございます。この日本文化チャンネル桜は、CSデジタル放送「スカイパーフェクTV!」の中のひとつのチャンネルとして放送します。日本文化チャンネル桜をご視聴いただくためには、まずこの「スカイパーフェクTV!」にご加入いただき、その上で日本文化チャンネル桜の視聴申込みをしていただく必要があります。

このチャンネル桜の存在はあまり広く知られていませんですが、会員の先生たちとご家族はもちろんこのチャンネルを見逃さずに、友人にもぜひ紹介して上げてくださいと存じます。では、日本文化チャンネル桜をお楽しみくださるよう。

申込みの方法は:

- 1 コンピューターお持ちの先生は下記の URL にて確認して下さい

<http://www.ch-sakura.jp/channel.php>

[申込みはメールで info@ch-sakura.jp](mailto:info@ch-sakura.jp)

- 2 電話のお問合せは 03-6419-3900 まで

その2 故郷の果物を賞味しませんか

台湾は果物の宝庫は言うまでもありません。その味は我々が小さい時から馴染んできた物ではありませんが、日本にて入手することは難しいようです。この度、台湾青果社が三佳商事の木村さん(去年本会通じて陶磁器を販売された方)に委託し、レイシ・マンゴー・パパヤを本会会員に販売することとなりました。詳細は別紙通りに参照の上、ご興味のある会員は各自に三佳商事の木村さんにご注文ください。ご注文の際は、必ず日本台湾医師連合の会員であることを三佳商事に知らせてください。

その3 2005 年度年会費未納の方、またはご寄付を希望する方は同封の振込み用紙をご利用頂けます。

若林正丈氏講演録

本稿は平成16年2月1日にホテルセンチュリーハイアットで行われた「日本台湾医師連合特別講演会」(主催・日本台湾医師連合)における、若林正丈・東京大学教授の講演録です。(文責・日本台湾医師連合)

「台湾ナショナリズムと日本・中国・アメリカ」

↓「結びつく経済」と「離れる心」の乖離が生む緊張

みなさん、こんばんは。ただいま、話しをする前に質問が出てしまい、どうしたらいいものかと思っています。私もよく覚えております。金美齡先生にそう聞かれて、結構理屈っぽく答えました。

「私が台湾研究をするようになったのは個人的には偶然だけれども、日本は一億人以上いる社会だから、誰か必ずやる人が現れるのは必然だろう」と。

いかにも書生っぽい返事をしたのを覚えております。しかしそれは今となってみれば、正しい理屈だと思っております。

それで今日は2月1日ですが、台湾の方ではもうすぐ、4年ごとの非常に悩ましい選択をしなければならない。一人ひとりが個人として厳しい選択をして投票しなければならない日が、刻々と迫っているのだと思います。前回の選挙の時には、精神科医にかかる方もたくさんいたと伺っております。

日本で2月1日というのは、プロ野球のキャンプインの日でして、夜のニュースの話題はほとんどそれで

す。みなそれをビールを飲みながら楽しんで見ている。私も台湾のことは研究しておりますが、身は日本に
いておりますので。だから台湾から東京にこられた方と話をしていると、そのギャップを覚えます。そのように
しながら、台湾を見ているということですよ。

現在中国大陸と台湾とは、経済的な関係はますます深まっていますが、そうすれば必ず国際上の共通の
利益というものが問題になります。それは相互依存関係というのです。

政治的、あるいは軍事的には潜在的な緊張関係にある「潜在的」という意味は、台湾の政治の中では
いろいろな見方があるのだけれども、そういう状況にある。

90年代の初めのころ、こうした状況について「文章を書いてくれ」といわれて、台湾海峡兩岸、中台関係
というものを一言で言い表せるキャッチフレーズみたいなものとして考えたのが「結びつく経済、離れる心」
です。

この「経済」とは貿易関係、投資、それとともに動くヒト、モノ、カネです。そして「心」とは、端的に言うと政
治ということですよ。90年代初における「離れる心」という意味での政治ですが、どこが離れるのかというと、
当時焦点が当たっていたのは、民主化だと思います。

ご案内のように、中国も改革開放政策をとりまして、少しずつ全体主義的な統制というのは緩み、多様化
が進んできたわけですよ。80年代後半になりますと、政治改革の必要というものが言われてきました。88年
後半に、中国からやってきた改革開放の学者の話聞いていましたら、ものすごい気炎を上げていましたね。
今すぐにでも民主化をするのではないかと。

ところがご案内のように天安門事件起こって、そうは行かなくなりました。ところが同じ時期に台湾の
方は、90年代初めころから着実に民主化が動きはじめました。当時は、その前から政治的自由化が進んで
いて、国民党のリーダーが変わったころから、具体的な制度改革が進んでいたというところでありました。そ
してその民主化というところで「離れる心」ということが言われていまして、それが国際的に評価されるよう
になったのです。その頂点が、95年の李登輝前総統のアメリカ訪問であったという風に言えると思うのです。

今日、台湾はすでに民主化を成し遂げていますが、民主体制の内実を固めなくてはならない時期に入っ
ていることは間違いありません。たしかに民主化は、国際的に見ると一段落ついているかに見えますが、そ
れでも民主体制がちゃんと動いているかということ、疑問があります。

私は憲法改正をしても、今の国会のあり方、選挙制度のあり方、今の半大統領制というシステムなどは、
あまり上手く行かないはずですから、それは変えた方がいいと思っています。

それは別として、今日「離れる心」と言ったときには、その内実は政治体制の問題ではなくなっていま
した。焦点はアイデンティティの問題であり、ナショナリズムの問題に移ってきていると言えると思います。そ
してその一方で、当然ながら、結びつく経済の意味合いも少しずつ変わってきているのではないかと思いま
す。

そう申しますのは、これはなかなか具体的な調査研究があるわけではありませんが、大陸との経済関係
が発展しますと、長期的に大陸に滞在する人が増えてきます。広東ではなく、先進的な地域である上海付
近に。その数も数十万単位となってきている。なおかつ大事なことは、子弟子女を中国大陸で勉強させる、
学校に入れるという行動もとらざるをえなくなっている。あるいは中国大陸の大学へ留学する人も出て
きて、一種の社会学的な関係の変化というのも出てきているのではないかと思います。

その変化のなかで、前回の総統選挙のときは所謂「台商」が、台湾へ戻って投票することもありました。し
かしそのときは、それほど選挙の結果に影響を与えたという観測は聞いておりませんが、今回はひよっとし
たら影響するのではないかという風に言われていますね。

ある台湾の消息通に伺った話では「ひよっとしたら今年は、台商が5万人くらい戻って投票するのではな
いか」と。そうすると五万票が動く。それだけでなく、その影響範囲は20万票くらいではないかと言われてい

ます。

総統選挙は、今日の日本経済新聞の報道によれば五分五分のデッドヒートだそうで、そうなると「結びつく経済「離れる心」の乖離がもたらす緊張いうものが次第に高まっていると言えるのではないかと思います。

そういうことで、日本の学者はあまりやってこなかったことですが、やはり台湾ナショナリズムを正面から取り上げて、いろいろ討論の場に乗せ、これは何なのかと考える必要があるだろうと、早急に考えまして、多少の文章を書いたりしています。

本日はそういう私の多少の成果をご紹介させていただきたいと思っております。

2、日本に対して生れたナショナリズムのプロトタイプ

台湾ナショナリズムですが「ナショナリズム」というのは、そもそも複雑なものです。台湾自体が非常に複雑な位置にありまして、内部も複雑ですから、いろいろな語り方があるわけです。

そこで私は、台湾社会が運命に関わってくるような他の人、他の集団、他の国家、他の社会、他の文化と関係を切り結んだ歴史の中で、台湾ナショナリズムがどのように出来てきて、どういう状態におかれているのかという見方で、お話をさせていただきたいと思っております。

あまり上手く理屈で説明できないのですが、台湾ナショナリズムにはどういうイメージがあるかと言うと、螺旋状のバネの上に台湾ナショナリズムは乗っていて、それは少しずつ上昇しているが、そのバネが4年ごとにはねて、そのバネの上には硬い国際社会の壁があって、それにぶつかる。こういうことになっている。

それで台湾の人たちもだんだんと、ひよつとしたら最後の真実の瞬間に、重大な選択をしなければいけないかもしれない。

選択をするということは「本当に自分が何を欲しているのかを、自分に問わなければならない」という時です。だから「真実のとき」という文学的な表現がよく使われますが、4年ごとに台湾海峡に、真実の瞬間が本当に来てしまうのではないかと。

第三者から見ると、あまり来て欲しくないわけですが、そう思わせてしまう。どうもそのような台湾の民主化の形ができています。

それから「他者との関係から述べたい」と申し上げましたが、それは日本、かつての日本との関係ですね。それから中国。具体的には中国とは中華民国と中華人民共和国の二つがあります。さらにはアメリカが存在する。

先に結論的に申し上げますと「他者との関係」で、台湾ナショナリズムが歴史的に、どういうものであったかを、イメージだけで言わせてもらえば、日本の植民地下の台湾社会の中で、その原型となるものが生まれた、という風に言えると思います。

しかしながら、それはまだ戦後の国際政治のひとつのアクターとして出てくるような台湾ナショナリズムではまだなかった。

現在我々が見るような形は、戦後の台湾にとっての最初の中国、つまり中華民国の統治下で誕生したのだと思います。

しかし台湾では、公共的な場で台湾ナショナリズムの主張はできなかった。そこで台湾の外の比較的自由的なアメリカや東京などで「これこれこうだから、台湾は独立を要求しなければならない」「台湾独立を支えるのは、これこれこういう来歴を持った人たちである」というようなイデオロギー、言説というものが形成され、そういう環境の中で一応命脈を保ってきた。

そして民主化が進む。ナショナリズムはいわゆる中華民国の下で成長しつつ、台湾にとって第二の中国である中華人民共和国と直接に対決する。言ってみれば当たり前のことなのですが、そうした状況できてい

ます。

今度は台湾と日本ということですが、台湾は大体九州くらいの大ききで、かなり多くの部分を山地が占めているわけです。清朝の統治の二百数十年間では、中国大陸から漢民族が相当渡ってきており、また山地には原住民族と呼ばれる人たちがいましたが、その時期から台湾人というコンセプトがあったかという、それは怪しいと思うんですね。やはり我々が「台湾人だ」と想像することができるような社会的な条件は、台湾という地理的な範囲の中で、他よりも台湾の中の方がコミュニケーションの密度が高いという状況にならないと出てこないと思うんですね。それが日本の植民地統治下の、植民地的な開発で実現した。縦貫鉄道ができ、道路ができ、電話が通じ、統一的な行政システムができ、学校システムができ、そこに新聞が発行され、社会的な情景が形成されてきた。いろいろな見方がありますが、植民地ですから日本人が統治し、そこには差別もあれば、圧迫もあった。そこで台湾人の漢民族は、言語の差異とは関係なく、植民地の住民であることによって、否応なしに共通の立場に立たされた。

それが1920年代ぐらいになりますと、日本人側から「台湾に住んでいるから、あなた方は台湾人にする」と言われるのではなくて「我々はこういう共通の運命と文化的背景を持った一つのまとまりの人間である」という考えが現れ始めた。それがやはり台湾意識のそもそもの始まりではないかと思っております。

1921年から34年まで、台湾のインテリと一部の開明的な資産家が、一種の自治運動をやりました。それは日本の本国の議会に対して、台湾総督府の予算と、台湾のみに施行される法律である律令を審議する台湾議会を作って欲しいという運動です。台湾を一つの単位として、なんらかの政治的権利を勝ちとって行くということです。そういう運動をするということは、台湾人のコミュニティーあるが前提です。

これは戦前の言い方ですから、少し硬いですが、当時の雑誌などではよく「台湾は台湾人の台湾たざるべからず」と言われ始めた。そういうことが一種のスローガンとして、台湾、台湾人という非常に強い自覚として言われるようになった。

総督府の警察の史料などを見ますと、台湾議会設置請願運動を推進した幹部の一人が「台湾議会 設置請願の開始とともに、台湾人に人格が生まれた」という言い方をしているんですね。これはやはり、日本という他者が来て、一つのステータスを押し付けた。そしてその押し付けられたステータスを逆手にとって、「自分たちはこういうものだ」という新しいアイデンティティを自覚したからに他ならないのです。

そういう意味で、そこに台湾アイデンティティのプロトタイプが生まれたと言えるのではないかと思います。

3、中国人になることを拒否された台湾人

1920年代というのは、日本でも左翼の影響が非常に強くなっておりまして、台湾でも1920年代後半には社会主義的な影響が強くなり、特に農民争議が一時激しく行われたときもあります。そうした左翼的な影響もありまして、左翼の陣営の方では段々と「帝国主義の圧迫を受ける弱小民族の一つだ」という言い方が出てきました。これは地下組織だったから、どれだけの影響力があったのかはわかりませんが、それを一番はっきりさせていたのが台湾共産党というものです。総督府が押取した資料によれば「台湾には台湾民族というものがあって、それが主体となって日本帝国主義を打倒して、台湾共和国をつくるべし」ということを、ブルジョア革命の第一段階の目標として掲げる綱領があった。

このように、日本の支配に対して、台湾人としてのアイデンティティの形成があるのですが、戦前の台湾のインテリは「先住民族は台湾人」とは言っていないんですね。蔡培火という人が例外的に、ちょっとだけ言っていますが、基本的には言っていない。そうすると台湾人は漢民族ということになりますから、大陸にあります祖国への憧れがあるわけです。しかし、これは学者の間でいろいろな議論が出てくると思うのですが、祖国と台湾人との関係はそれほど明白ではない。そこへ日中戦争が始まりますと、やはり中国と日本との関係は緊張の局地に達しますから、祖国に対する憧れがあっても、他方で皇民化ということで、日本は「日

本人になれ」という圧力を強めたわけですから、そうした中での分裂を経験せざるをえなくなる。

その時になってきて「中国に属するわけでもない。かと言って本当は日本人にもなれない。我々はアジアの孤児なのか」という運命の感覚が持たれた。それを呉濁流さんという客家の作家が『アジアの孤児』という、80年代に大変有名になった小説で書いている。

「日本統治下でプロトタイプができた」というのが私の見方なのですが、戦後、日本の植民地帝国は解体したものの、フランスのように、独立戦争をしかけられた植民地を手放して解体したわけではありません。統治された側から見れば、支配者が戦争を勝手にやって、勝手に負けて、勝手に崩壊したわけです。負けたことで、台湾は植民地でなくなるという形になるわけですが、そこへ中華民国がやって来た。

あまり「やって来た」と言うと、腹を立てる方もいるかと思いますが、台湾人の視点からするとそんなじゃないかと思いますね。

1895年に「日本がやって来た」というものもあるのですが、当時の台湾の人にとっては、この日本というものは明らかに他者なのです。しかし1945年に「やって来た」中華民国というのは、先ほど言った「祖国に対する感情」が残っていたことから考えれば、必ずしも他者ではなかったわけです。その当時中国から派遣された第70軍でしたでしょうか、それを女子学生はセーラー服を着て、男子学生はつめ入りを着て横断幕を作って、基隆の埠頭に迎えに行ったこと等から考えてもですね。

ところがその47、48、49年には、台湾独立の思想というのが一部で言われていたわけです。中華民国、あるいは中国から独立しようというわけです。そのときにはどのくらいの数か分かりませんが、少なくない人たちにとっては中華民国という中国は他者になってしまったということでしょう。

私はこういう歴史的な回顧の仕方がいいのかどうか分かりませんが、中国に対して独立を言う台湾ナショナリズムとは、台湾人の自分の独自の経験を基礎にして、それを認めてもらった上で中国人になりたいという要求が、かなり粗暴に拒否された結果、生れたと言えると思うのですね。

最初の台湾人奴隷化論争というのは、最近の台湾の若い学者によって詳しく説明されています。これは「台湾人は日本人によって奴隷化された」ということです。台湾が光復して、中華民国政府が台湾省として接収するということで、役人、文化人等々が送り込まれた。そのとき役人等がさかんに言ったことが、台湾人は「日本の植民地支配を受け教育され日本の毒素が入っている」「日本語はしゃべれるが、我々の国語はしゃべれないではないか」「祖国の歴史を理解していないではないか」「三民主義を理解していないではないか」ということです。そこで例えば46年のいわゆる光復節には、日本語を公共の場で、あるいは新聞雑誌で禁止してしまったわけです。それから台湾での官吏登用は、一定程度の訓練を受けてからと。これは「中国人とはこういうものだ」という、一種の中国国民党のオフィシャルなナショナリズムの基準で「あなたはまだ不十分だから、権利を与えるのは割り引きますよ」という理屈です。

この理屈を抽象的なパターンにしますと、日本が植民地統治をしているときに言っていたことと、だいたい同じだと思います。

だから、日本の植民地支配から解放された当時の台湾のインテリには「新しい中国の建設に参加するんだ」と思っていた人たちがいっぱいいましたから、そういう人たちから見れば、非常に心外だったわけです。そこでかなり激しい論争があったといわれているのですね。

そうした状況があるので、一種の自治運動、例えば県市長を公選にしようという運動が始まったところに二・二八事件が勃発して、流血の惨事が起こった。当時の台湾の学者などが紹介している台湾人の反論というのは「確かに我々は日本教育を受け、日本語も身につけたが、それで奴隷化されたわけではない。我々は選択的に、日本を通じて近代の文化を吸収してきたのだ」という言い方をしているわけですね。だから外省人の役人が、日本的に見える台湾の都市の近代化を「日本化と見るのはおかしいのではないか」という反発をしたわけです。

それで、台湾人の側から見るともつともな話ではありますけども、二・二八事件で二・二八事件処理委員会を作り、事件の処理だけではなく、台湾省政改革委員会になってしまったわけですね。台湾人は「そういう自分たちのあり方も、中国人の一部だから認めろ」との要求を、台湾人奴隷化論に対して言い始めたわけです。

それが中華民国に対しての反乱だと見なされた。そしてとても治安回復だけと思えないような軍事行動がとられ、流血の回答がきたわけですね。当然これに対する反発も起こってきました。その中で、台湾人には「今の中国と我々は違うんだ」という発想が出てきました。

台湾ナショナリズムの現代的な誕生のストーリーを抽象的に言えば、こうなるのではないかと、私は思います。もちろん当時は、台湾独立の思想だけが選択肢というわけでもなくて、中国の内戦が激しくなり、国民党は旗色が悪くっているわけですから、いわゆる新中国、社会主義の祖国に、新しい祖国を見出すという選択をした人たちもいっぱいいるわけですね。しかしそれで、実際の行動として中国に渡った人たちの多くは、反右闘争、文革という大変な辛酸をなめたということは、今では明らかになっている事実です。

白色テロの下では「台湾独立」も言えなければ、もちろん「社会主義」も言えないわけです。社会主義という新しいアイデンティティで台湾の前途を語ることもできなくなった。台湾ナショナリズムという政治文化的な言説、公共的な主張が出てくるのは、やはり80年代初めくらいからだと思います。

4「台湾独立」が支持された80年代の背景

49年以降、中国国民党政権は、二・二八事件に反抗したような日本語をしゃべる世代ではなく、その次の世代の台湾人をターゲットにし、それを中国人として統合して行ったわけですね。それは経済的発展もありまして、かなり成功したのではないかと思います。日本がやったよりも、成功したような気がします。ところが80年代になりまして、台湾独立の思想が出てきて、それが民主化と一緒にやりながら発展してきました。2000年の時点で四分の一くらいが台湾ナショナリストの思想に近いという研究もあります。

70年代まで、つまり戒厳令が解除され、あるいはブラックリストが破棄されるまでは「台湾独立」はタブーであったわけですが、それが80年代以降、台湾の政治の中に登場して、少なくとも有権者の四分の一以上がそれを支持したということは、やはり何かあったわけですね。

45年から49年生まれの間、二・二八事件や台湾奴隷化論争のような思想的摩擦、政治的弾圧があったのと同じように何かがあったのだらうと思うのです。

それについて最近台湾の若い学者が研究しまして、私もそれを勉強させていただいて、論を組み立てているのですが、やはり70年代というものが大事なんだろうと思うんですね。ご存知のように70年代初めというのは台湾、中華民国の外交的危機の段階でありました。80年代を通じて中華民国という国名が国際社会であまり通じなくなってきた。これは危機の時代です。70年代前半くらいから政治の面では、選挙を通じて民進党の前身である各種の党外勢力が出てくるわけですが、当時の党外勢力というのは必ずしも反対的思想ではないのです。中華民国のシステムを認めた上で、政治的な合理化をして「しかるべき地位を与えよ」「政治的権利を欲しい」ということですから、体制内改革であったわけですね。ところが1978年に美麗島事件が起こりました。これは一部を除いた党外勢力へのほぼ全面弾圧だったわけですね。二・二八事件のように行きませんでしたけれども、それでも全面的な弾圧が行われたということ。それが一つです。

もうひとつは、もう一度中国国民党による中国国民形成というのですか、台湾人をもう一回中国人に同化する政策といいますか、そう育成政策の申し子である戦後世代のインテリが、外交的危機のショックの後に、台湾の歴史文学の歴史を振り返って、郷土に回帰する、あるいは郷土文学、台湾の現実に根ざした台湾の郷土そのものを書くという、郷土文学を作り始めた。それが70年代を通じて盛んになり、国民党系の文

化人から、中国で言う一種の「労農系文学だ」というレッテルを貼られて攻撃をされた。それで77年から78年かけて、郷土文学論戦と言われる論争になりました。

聞いた話だと、国民党の方も、作家を捕まえ、弾圧しようとした。しかしこれは対米関係やいろいろな事情があつてできなかったそうです。

台湾の学者の研究によりますと、戦後世代の評論家たちがやろうとしていたのは「日本統治時代の文学運動とか文化運動の歴史も、中国のナショナリズムの中では正当なものであつて、それを認めろ」という訴えです。そういう論調に対して国民党は、拒否回答をやってしまった。

しかしながら1979年の国民党は40年代末の国民党とは、台湾社会での地位からも、国際的な地位からも違っていたわけです。民主化のプロセスはそこから始まった。